

本報告書に係る問い合わせ先

日本貿易振興機構（JETRO）ブリュッセル事務所

E-mail: belinfo@jetro.go.jp

本報告書の利用についての注意・免責事項

本報告書は、2021年3月現在入手している情報に基づき取りまとめたものであり、その後の経済情勢等により記載内容が変わる場合があります。本稿はあくまでも参考情報の提供を目的としており、法的助言を構成するものではなく、法的助言として依拠すべきものではありません。本稿に基づいて行為をされる場合には、必ず個別の事案に沿った具体的な法的助言を別途お求めください。

ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、派生的、特別の、付随的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、それが契約、不法行為、無過失責任、あるいはその他の原因に基づき生じたか否かにかかわらず、一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

目次

第1章 ベルギー政府のアフリカ政策

1. イントロダクション	5
2. 連邦政府のアフリカにおけるプレゼンス	7
3. 地域政府のアフリカでのプレゼンス	11
4. アフリカの地理的区分	16
5. 経済地域分類	26
6. ベルギーのアフリカ主要国への輸出額	27

第2章 アフリカ進出主要ベルギー企業リスト

アフリカ進出主要ベルギー企業リスト	29
-------------------------	----

第3章 ベルギー企業のアフリカビジネス概況 – 20選

1. ABC Contracting	39
2. BESIX	41
3. BIA Overseas	42
4. BICS	44
5. COLEX	46
6. DEME	48
7. DENYS	50
8. ECU	51
9. Jan De Nul	52
10. John Cockerill	54
11. QGM Holding	56
12. Remant Africa Logistics	58
13. SIAT	59
14. SOCFIN	61
15. Sotrad Water	63
16. TEXAF	65
17. TRACTEBEL	67
18. Unibra	70
19. VISAT CONNECT	72
20. ZINGAMETALL	74

第1章 | ベルギー政府のアフリカ政策

La Politique Belge et l'Afrique

1. イントロダクション

本章では、ベルギーのアフリカに対する外交政策と、ベルギー企業に対する政府の支援体制について分析する。まず、ベルギーの政治構造と各連邦体・政府関連機関の役割、活動について概説する。続いて、これらの機関がアフリカ各国との貿易や現地に与えるインパクトについて分析する。最後に、アフリカを地域別（中部、南部、東部、西部）に分類した上で、各国とベルギーとの関係について解説する。

ベルギーの組織的戦略

ベルギーは連邦国家であり、海外でのプレゼンスを説明する前に、国内の制度的な仕組みと、そこから生じる結果・制約についてまず解説する。ベルギーは外交面において次のような三層構造を取っている：①フィリップ国王、マチルド王妃が象徴的役割を担う王室、②首相が代表を務める連邦政府、③外務大臣、開発援助大臣が率いる外交部門。

内政面では、以下の6つの連邦体から構成されており、それぞれの政府が、所管する地域・分野に基づき政策を立案・決定している：

- **地域政府（フランダース*、ワロン、ブリュッセル首都圏）**：農業、経済政策、雇用、地方自治体、公共事業、地域交通、環境といった経済・地域に関わる分野を所管。
- **共同体政府（オランダ語*、フランス語、ドイツ語）**：言語政策、文化、メディア、教育に加え、社会扶助、健康、職業教育、青少年保護、観光などを所管。

※ フランダース地域政府とオランダ語共同体はフランダース政府として政府・議会を一体化している。

連邦政府は国家主権に関わる分野（軍事、外交政策、司法、税制、公安）について原則として権限を有し、社会保障や年金についても所管している。

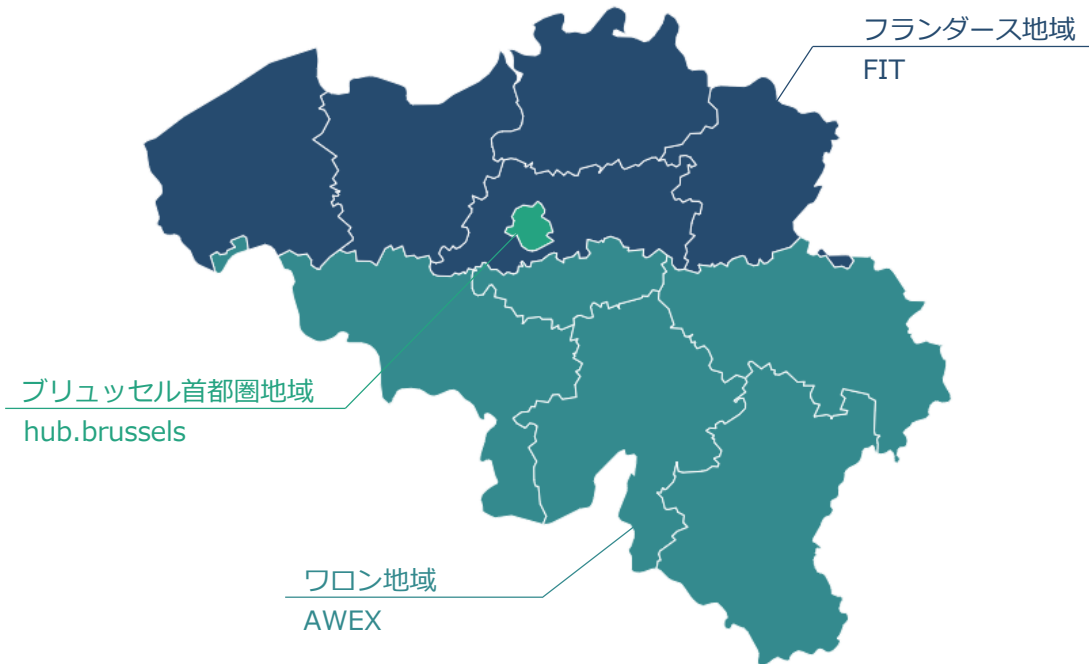
フィリップ国王とマチルド王妃はベルギー国民統一の象徴としての役割を担っている。国王は、議会により可決された法律を承認・公布するとともに、総選挙後には組閣人（formateur）を任命する。国王の権限は、政府によって強く制限され、また管理されている。従って、国王が行う行為は象徴的なものであり、イメージに関するものが大半である。そのため、国王は実質的な決定権を有していない。

連邦政府の対外政策という点では、首相、外務大臣、開発担当大臣の3名がベルギーを代表しているが、それぞれの権限については、ピラミッド型でも、厳密に定められたものでもない。ヒエラルキーは存在するものの、それぞれが高い自律性を有している。外務大臣は外交上の全権を有しており、首相の決定に依拠する必要はない。しかしながら、組閣に当たっては、各大臣は自分が進める政策についてポリシーペーパーを首相に提出する必要があり、首相の合意の下で政策を実施する。また、ベルギーの外交上の伝統に倣って、前任者の足跡を辿ることが求められている。外務大臣は、毎週月曜日に開催される外交委員会、毎週水曜日に開催される海外ミッションフォローアップ委員会を通じて、連邦政府への説明責任を負っている。

海外においては、各国に設置された大使館の他、連邦レベルでは対外貿易庁（Agence pour le Commerce Extérieur）と開発援助機関が活動を行っている。これに加えて、各地域政府（フランダース、ワロン、ブリュッセル首都圏）が代表事務所を有している。各地域はそれぞれ固有の産業・ポテンシャルを有し、海外に対してオファーできるものが異なるため、「何を売り込むのか」についての決定は、各地域が自律的に行っている。

1. イントロダクション

そのため、各地域政府はhub.brussels（ブリュッセル首都圏）、FIT（フランダース）、AWEX（ワロン）という公的な輸出促進機関を有し、これらの3機関が、連邦および地域レベルでの協力や、貿易促進において重要な役割を果たしている（各機関の詳細については後述）。これらの機関は、各地域の企業が海外で新しい市場を開拓し、結果としてベルギーのプレゼンスを高めるための様々な支援を行っている。海外に合計120拠点を持つこれらの機関は、貿易の強化にとって必要不可欠な存在である。また、ベルギーは数多くの経済ミッションを海外に派遣しており、連邦対外貿易庁の支援を受けているが、同時に各地域の輸出促進機関が特に重要な役割を果たしている。



ベルギーは輸出促進のため、経済ミッション、セミナー、その他大規模な経済イベントを、連邦、地域、民間（商工会議所等）といった様々なレベルで実施している。経済ミッションは、民間または地域政府が主催するものと、王室ミッションの2種類に大別できる。王室ミッションは、王室メンバーが団長を務める権威あるもので、ベルギーの経済界の関係者が、連邦政府・地域政府からの支援を受けて現地視察を行う。現地では、参加企業は、潜在的な現地のビジネスパートナーや、自社にとって可能性のあるマーケットなど、幅広く紹介を受けることができる。王室ミッションは、対外貿易庁の主導の下、各地域政府との協力により実施される。国王、王妃、王子、王女などの王室メンバーが参加することで、メディアによる大々的な報道が期待できるとともに、よりハイレベルなネットワーキングが実現できるミッションとなっている。

地域政府や商工会議所によって企画されるミッションは、王室ミッションに比べて規模は小さくなるものの、同じような構造で実施されている。これらミッションの詳細については後述する。

以上のように、ベルギーにおいては国家として単一の対外通商戦略はなく、連邦、地域といった複数の主体がそれぞれの戦略・利害に基づき活動している。それによって複雑性が増しているが、一方で、こうした「ベルギーモデル」による成功も生まれていることも事実である。

2. 連邦政府のアフリカにおけるプレゼンス

対外戦略の概要

連邦政府の対外戦略は、大きく外交、通商、国際協力に分類できる。ベルギーの戦略を理解する上では、フランスの政治学者であるマリー・クリスティーヌ・ケスラーが提唱し、ベルギーの著名な外交官であるラウル・デルコルドが言及した「経済外交（diplomatie économique）」の概念を念頭に置く必要がある（“経済外交とは、自国の商業的・財政的な目的のために公的機関によって実施されるもので、自国の企業や職業グループ、国民の利益を図りつつ経済的な繁栄を達成することを目的としている”）

外交

ベルギーは海外に大使館を84カ国、領事館を310カ所に設置しており、内アフリカにはそれぞれ19カ国、24カ所に設置している。これらの外交施設は、相手国との歴史的な繋がりを体現するもので、重要な交渉や競技の場として機能している。在プレトリアのベルギー大使館が入居する「Kirkness House」など、どのような建物に大使館を構えるかの選択は、国家としての威信を海外で示すための重要な要素である。その点では、改築したコンゴ民主共和国の大使館は、美的観点からだけでなく、その規模においても特筆すべきものと言える。大使館の建物が、ベルギーの外交戦略における相手国の重要性を示すとすれば、キンシャサの大使館はその好例であり、改築には1,100万EURが計上された。

外交においては、アフリカ諸国とベルギーとの間では、様々な合意、会合、また往来が継続的に行われ、良好な関係を維持している。民間企業の投資を奨励する前に、政府は投資のための基盤を整備し、その道筋を作らなければならない。アフリカではしばしば特定の行動が新植民地主義とみなされることもあることから、円滑に物事を進めるためには外交面での対応が必要不可欠と言える。

EU-アフリカ首脳会議はこうした外交活動の一例であり、「繁栄と平和に向けた人材への投資」というテーマが設定された首脳会議では、国王と王妃が、アフリカ各国の代表団を王宮に迎え外交活動を行った。

連邦レベルでは、アフリカ各国の開発についても重点が置かれている。例えば、「アフリカの開発のためのボードゥアン国王賞」という賞が設けられ、アフリカの開発に多大な貢献をした人物・組織に与えられている。この賞は、アフリカの現地の人々が、自ら開発に関わり、生活の質を向上させるような画期的な取り組みに対して贈られる。国王と王妃は、ブリュッセル王宮で行われる授賞式に出席し、受賞者・組織の代表者と謁見する。

通商（対外貿易庁とその活動）

前述の王室ミッションの他に、連邦レベルでは対外貿易庁（オランダ語：ABH／Agentschap voor Buitenlandse Handel、フランス語：ACE／Agence pour le Commerce Extérieur、以降ACEと表記）が貿易促進のための中心的役割を担っている。ACEは、連邦外務省、ブリュッセル首都圏政府貿易投資局（hub.brussels）、フランダース政府貿易投資局（FIT）、ワロン地域政府貿易・外国投資振興庁（AWEX）と連携し活動している。

ACEは、連邦政府と各地域政府との間で2002年5月24日に締結された協力協定に基づき設立された組織で、国王を名誉会長とする理事会により運営される。同庁は、前出の各地域の貿易・投資促進機関と連邦外務省との合意の下で各種の活動を行っており、外交政策を担当する連邦政府当局と、貿易政策を担当する地域政府当局が協議するためのプラットフォームとしての機能も担っている。

2. 連邦政府のアフリカにおけるプレゼンス

各機関との連携やミッション派遣の他に、ACEは「Trade4U」というアプリケーションを提供している。このアプリは、登録企業に対して貿易に関わるビジネス機会の情報を、ターゲットを絞りつつ効率的に提供するために開発された。一般的なものから専門的なものまで、約500のソースを日々参照することで、企業にとって関心の高い情報を発掘・提供している。2020年には、総計24,423件のビジネスプロポーザルが本アプリを通じて配信された。

また、Trade4Uは企業間のコンソーシアムを組織するためにも活用されている。ベルギー企業の大部分は中小企業だが、これらの企業は、国際機関による大規模な案件に単独で対応できるほどの十分な企業規模を有しておらず、しばしばコンソーシアムを形成する必要性に迫られることがある。そうした際にTrade4Uが活用される。また、アプリを通じて最新の貿易・経済情報および法令関連のアップデートを入手することもできる。

開発協力

ベルギーの開発協力政策は、開発協力担当大臣の下、連邦外務省開発協力総局（DGD）が所管している。DGDは5つの部局（D1～D5）と亡命・移民問題を所掌する専門部署から構成されている。地域部（D1）はアフリカ各国・地域の個別の事情とニーズを考慮し、以下のとおり地域毎に分けられ、各地域のコンテキストに則した政策を立案・実行する：

- D1-1. 総務・財政セクション
- D1-2. 西部アフリカおよびアラブ諸国
- D1-3. 中部および南部アフリカ

市民社会部（D3）は、大学・科学機関、教育関連機関、地方自治体、労働組合などの非政府組織（NGO）との関係を所管している。これらNGOは、開発協力や政策支援の面で重要な役割を果たすものと認識されている。D3の構成は以下のとおり：

- D3-0. NGOへの補助金のモニタリング担当セクション
- D3-1. 開発教育
- D3-2. 北部・西部アフリカおよびアラブ諸国
- D3-3. 中部・南部アフリカ
- D3-4. アジアおよびラテンアメリカ

Enabel

Enabelは、開発協力実施のための政府機関で、2015年に国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に基づき、各種プログラムに規定された任務を遂行している。Enabelは、ベルギー政府の開発目標と合致し、また公的ミッションの質を貶めず、競争に関する法規制を順守するという条件の下、第三者に任務の実施を委託し、国際開発におけるベルギーの影響力強化に努めている。

開発協力担当大臣は、社会の安定化、トレーニング・意識向上、公正かつ持続可能な取引の促進、開発に資するデジタル化、革新的な金融手段、その他SDGs達成に資する重要分野について、Enabelに介入を要請することができる。アフリカに対するベルギーの資金援助の枠組みにおいては、Enabelは以下の13カ国で活動している：ベナン、ブルキナファソ、ブルンジ、ギニア、マリ、モロッコ、モザンビーク、ニジェール、ウガンダ、コンゴ民主共和国、ルワンダ、セネガル、タンザニア。また、これらの国以外であっても、一定の条件のもと、他のドナーに代わってプロジェクトを実施している。

2. 連邦政府のアフリカにおけるプレゼンス

Enabelは、ベルギー政府と締結した2018～21年の運営契約に基づき活動しており、結果志向のマネジメント、リスク測定、イノベーション、コスト効率などを念頭に任務を遂行している。

ベルギーかつ欧州の開発協力実施機関として、Enabelの活動資金は以下のドナーから供与されている（金額順）

- 欧州委員会（国際パートナーシップ総局およびその他の総局）、欧州対外行動局（EEAS）および開発金融機関
- EU加盟国および各国のドナー機関
- グローバル・ファンド、財団
- ベルギー地域政府：フランダース、ブリュッセル首都圏、ワロン各地域

事業の実施に当たっては、Enabelは最低500万EUR、実施期間36カ月以上のプロジェクト／プログラムを優先させる。予算や実施期間が基準に満たないプロジェクトが一律に却下されることはないものの、革新的な要素があるか、既存事業を補強するものであるか、ベルギーにとって戦略的な利益があるか等の観点に基づき特別に精査される。事業ターゲット国の構造的変化を誘発するため、4～5年の実施期間のプロジェクト契約が一般的である。

Credendo

Credendoは、信用供与と保険を通じてベルギーの貿易を支援する目的で1921年に政府により設立された。政府保証の保険付保という公的な使命に加え、ベルギーの輸出促進のため、2004年から民間の貿易保険も提供を開始した。ベルギー政府が唯一の株主で、海外15カ国に支店を有している。

Credendoは欧州各国で、信用保険のあらゆる分野を対象に事業を行っており、世界中でリスクをカバーする様々な商品を提供している（輸出信用機関サービス、欧州内外の短期リスクをカバーする信用保険、シングルリスク、超過損害再保険（エクセスオブロスカバー）、トップアップ、保証金、再保険など）。2019年、Credendoは約850億EURの国際貿易取引に保証を行い、3億1,490万EURの保険金の支払いを行った。同社は欧州で4番目の信用保険グループに位置づけられている。

2005年には「Forfaitage」というフォーフェティング商品の販売を開始、これによりベルギーの輸出企業は納品後直ぐに支払いを受けることができるようになった。Credendoは債権の85%を買い取り、海外の輸入者から2～5年をかけてその金額を回収する。2017年にはバイヤーズ・クレジットを開始。主には小規模輸出事業者を対象にした商品で、平均60万EURの取引を対象としている。銀行の輸出クレジットの50%を保証することで、Credendoは銀行が輸出者に供与したクレジットについてリスクの半分を保証する。

また、スタートアップ企業特有の事情に対応するため、Area 42というコミュニケーションプラットフォームを立ち上げ、スタートアップ企業や中小企業のニーズに基づいた保険商品の開発を行っている。特にアフリカは、ビジネスの難易度とリスクが高い地域であり、企業がリスクを低減してプロジェクトを実施し、また中小企業の投資を促すためには、適切な保険商品の開発・提供が望まれている。

2. 連邦政府のアフリカにおけるプレゼンス

政策決定プロセス

連邦レベルでは、コンセンサスの原則に基づき意思決定が行われる。国王、首相、外務大臣、開発協力担当大臣など、様々な関係者が合意の上で、明確かつ精緻なガイドラインを作成する。

連邦レベルでの経済ミッションは、対外貿易庁のイニシアティブの下、様々なメンバー・関係者のニーズや要望に基づき実施される。

今後予定される経済ミッションは次のとおり：

英国（2021）、米国（2021）、日本（2022）、セネガル（2022）、オーストラリア（2022）

これまでに実施されたアフリカ向けの王室ミッションで、最も参加者（企業・政府関係者）を集めたものは、2018年に実施されたモロッコミッションで、参加者は469名に上った。

王室ミッション実施の流れも連邦経済ミッションと同様で、まずは企業の意向確認が行われ、その後派遣先の提案が成された後で、上層部での決定が行われ、派遣が実施される。ミッションの準備は1～2年前から開始される。

3. 地域政府のアフリカでのプレゼンス

戦略および対外政策

各地域政府の戦略は、ベルギー国内の様々な政府間の関係性と協力に基づき決定されている。前述のとおり、ベルギーは連邦国家であり、各連邦体に権限が分散されている。貿易分野は連邦政府の所管ではなく、各地域政府が責任を負っており、各地域の貿易・投資促進機関（ブリュッセル首都圏：hub.brussels、フランダース：FIT、ワロン：AWEX）がプロモーション活動を行っている。これらの貿易・投資促進機関は、ターゲットとなる国（重点国）に駐在員を派遣し、各地域からの輸出の促進・支援を積極的に行っている。

	連邦政府	地域政府	共同体政府
所管分野	核、司法、税制、国境管理、エネルギー、外交政策	貿易、地域開発、経済、雇用、農業、地方自治	文化、教育、言語、社会保障、職業教育等

地域政府機関と事業範囲

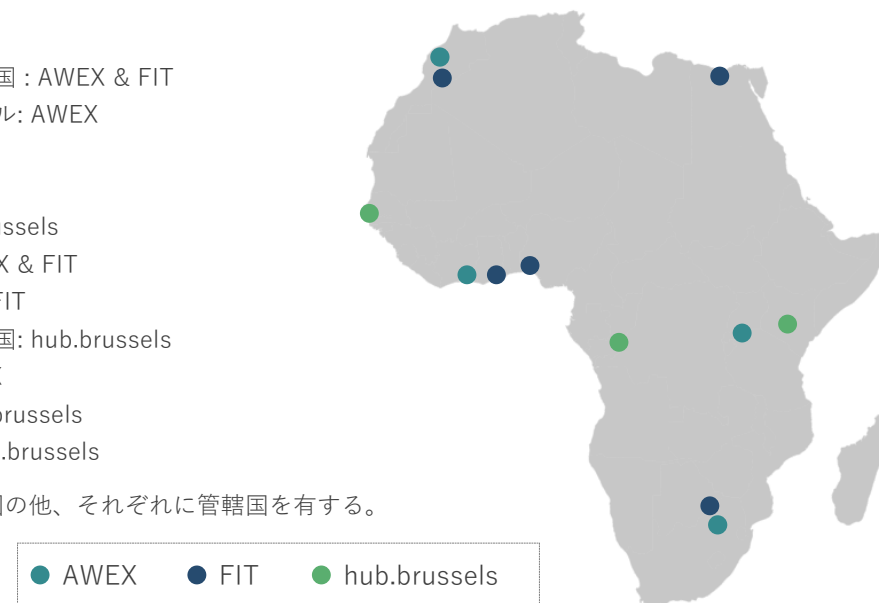
各地域の貿易・投資促進機関は、それぞれの地域の経済的なポテンシャルに基づき、通商・経済政策上重要と思われる国に駐在員を派遣している。これらの駐在員は、同じく現地に派遣された連邦政府の外交官と連携し活動している。駐在員数は、派遣国に対する経済的利益の規模、企業の関心に依りて異なる。例えば、ジブチについては、経済的な関心が相対的に低いため、エジプトに所在する3機関の共同事務所が担当している。他方で、経済的な関心が高い国については事情が異なり、例えばモロッコには、hub.brusselsとAWEXの共同の駐在員とFITの駐在員がそれぞれ派遣されており、2カ所目の事務所の設置も計画されている。

これらは地域政府間の協力合意に基づいており、自機関が駐在員を派遣していない国については、他の機関の駐在員に協力を要請することができる。例えば、hub.brusselsは、南アフリカ共和国、コートジボワール、エジプト、モロッコには駐在員を派遣しておらず、AWEXやFITからの支援を得ている。また、AWEXのウェブサイトには、エジプト（及びジブチ、エリトリア、チャド、スーダン、南スーダン）の代表として、FITの経済・通商担当官が紹介されている。こうした協力協定により、例えばワロン地域の企業は、ガーナにおいてはFITの駐在員をカウンターパートとすることができる。このようにして各地域の貿易・投資促進機関は、特定の国に事務所を設置し、それぞれの経済的・政治的な利益を追求しつつ、あらゆるレベルでベルギー企業の支援を行っている。

hub.brussels、AWEX、FITのアフリカ内事務所

- 南アフリカ共和国：AWEX & FIT
- コートジボワール：AWEX
- エジプト：FIT
- ガーナ：FIT
- ケニア：hub.brussels
- モロッコ：AWEX & FIT
- ナイジェリア：FIT
- コンゴ民主共和国：hub.brussels
- ルワンダ：AWEX
- セネガル：hub.brussels
- チュニジア：hub.brussels

※各事務所は所在国の他、それぞれに管轄国を有する。



3. 地域政府のアフリカでのプレゼンス

ブリュッセル首都圏地域 – hub.brussels

2018年、Atrium.brussels、Impulse.brussels、Bruxelles Invest & Exportの3機関が合併しhub.brusselsとなった。他の2機関（FIT、AWEX）と異なり、hub.brusselsは輸出促進の枠に捉われず、以下のような企業支援サービスを無料で提供している：

- **Mybusinesspass**：Fly、Sail、Change for Greenの3つのパスから構成され、情報提供、アドバイス、アクセレレーション・プログラム、コーチングといった企業ニーズに応える公的／民間サービスを提供
- **Circlemade**：循環型経済に関するビジネスオファーが提案可能な企業クラスター

ブリュッセル首都圏政府は、5年間の運営契約を締結し、hub.brusselsに予算交付を行っている。この契約に基づき、hub.brusselsはビジネス支援のためのアクションプランを策定・実行している。240人以上の従業員から成り、年間予算は約3,800万。

海外では、輸出ビジネス部門が輸出を希望する企業の支援を行っている。新規市場の獲得に向けた個別支援の他、経済ミッションの組成やコーチング、イベントの実施などを行っている。2018年にhub.brusselsが行った主な活動は以下のとおり：

- 86のビジネス関連事業を実施。参加者数は2017年の1,511人から1,644人に増加。成功件数は8%増を達成。
- アフリカへの経済ミッションの派遣。アフリカはブリュッセル企業の関心が最も高い地域で、2018年のモロッコへの王室ミッションには過去最大となる110人が参加（2017年のコートジボワールへの王室ミッションの参加者は69名）

hub.brusselsは、経済的利益に基づき組織を地域別に分割している。また、特定の産業セクターに限定されず、あらゆる業種の企業を支援しているが、以下を特にターゲットセクターとして定めている：

持続可能な建築・リノベーション、デジタル、持続可能な経済、保健・医療技術、観光・文化・イベント

ワロン地域 – AWEX

ワロン地域政府貿易・外国投資振興庁（AWEX）は1998年に設立されたワロン地域の公的機関で、海外展開を志向するワロン企業の支援を行う一方で、ワロン地域への進出に関心のある外国企業の誘致、もしくはワロン地域に進出した企業のビジネス拡大支援も行っている。

ワロン企業の国際展開支援という点では、AWEXはhub.brusselsと同様のモデルに基づき活動している。AWEXはまた、アフリカの機関、企業、政府とも連携を進めており、例えば南アフリカ共和国のInvestSAや貿易産業省（DTI）と協力合意を結んでいる。この合意は、双方向の投資促進を目指し、主に情報交換や外国投資誘致活動への相互協力を見込んでいる。

リエージュがアリババの拠点となっていること、また、リエージュと鄭州が鉄道で結ばれていることから、AWEXは中国と密接な関係を築いている。

AWEXは以下の分野をはじめとして、様々な産業分野の企業支援を行っている：航空宇宙、農業・食品加工、バイオテクノロジー、化学、デジタル、エネルギー・環境、ライフサイエンス、観光・文化、ロジスティクス

3. 地域政府のアフリカでのプレゼンス

フランス語共同体－ワロン＝ブリュッセル・インターナショナル (WBI)

外務大臣が主導する外交政策、開発協力担当大臣が主導する開発協力政策、王室外交、各地域政府の通商政策に加えて、文化・教育・音楽・芸術といったソフトコンテンツについても、ベルギーは海外への展開を進めており、WBIがその役割を担っている。

フランス語共同体政府は、海外でベルギーを売り込むため、代表団 (DGWB) を派遣し活動している。比較対象として近いのはフランスの文化センター (アンスティチュ・フランセ) だが、DGWBの方が活動の幅が広いと言える。しかしながら、拠点数の少なさから残念ながら現状はリーチできる範囲が限られている。

DGWBは、大使館の外交官と同等の外交ステータスを有しており、駐在国においてフランス語共同体政府の代表として活動している。活動分野は以下のとおり：

開発協力、文化、人権、経済、教育・研修・トレーニング・雇用、環境、若者、フランス語、保健・社会保障

アフリカにおいては、セネガル、コンゴ民主共和国、モロッコ、チュニジアに拠点を有している。具体的な活動としては、海外でのベルギー学校の運営助成 (カサブランカのベルギー学校等) の他、ベルギー留学のための奨学金の支給、ベルギーフェスティバルなど文化イベントの実施などを行っている。

フランダース地域－FIT

フランダース政府貿易投資局 (FIT) は、フランダース地域の貿易促進を担う機関。同地域は、アントワープ、ゼーブルージュ、オステンド、ゲントなどの国際港を有し、国際海上輸送の要衝となっていることから、アフリカの多くの港湾当局とも良好な関係を構築している。

2016年、FITはベルギー・ルクセンブルク・ACP諸国商工会議所 (CBL-ACP) の支援を受けて、コートジボワールとギニアに大臣級の経済ミッションを派遣、フランダース企業55社が参加した。コートジボワールは近年高い経済成長を達成しており、フランダース地域にとってはサブサハラアフリカでは6番目の貿易相手となっている。ミッションでは、サンペドロ港とアントワープ港との間で協力合意が結ばれるなど、重要な契約が締結された。

FITは以下の分野を中心に活動している：

航空宇宙、アグロインダストリー、自動車、ダイヤモンド・宝飾品、バイオテクノロジー、流通、エネルギー・環境、ロジスティクス、医療・薬学、金融サービス

各地域の貿易投資促進機関は、3機関合同、2機関共同、単独など様々な形でのミッション派遣を企画・実施しており、2021年にはAWEXとhub.brusselsの共同ミッション (マルチセクター) をカメルーンに派遣する予定。

3. 地域政府のアフリカでのプレゼンス

まとめ

連邦外務省が各国の大使館に外交官を派遣する一方で、各地域政府は、経済・商務担当官（外交官ステータスを所持）を派遣している。大使館内では、領事部、外交部、経済部といったセクションに分かれているが、領事部・外交部には主に外務省から派遣された外交官が、経済部にはAWEX、FIT、hub.brusselsが派遣する外交官がそれぞれ所属している。

しかしながら、地域政府の経済代表部が大使館に所属していないケースもあり、例えば南アフリカ共和国では、大使館はプレトリアに所在、AWEX、hub.brusselsのオフィスは同大使館内にあるものの、FITのオフィスはヨハネスブルクに設置されている。

大使館が地域政府の経済代表部を内部に含めるのは主に以下の理由による：

1. 情報の集約：ベルギー国民がよりアクセスがしやすいサービスの提供を目指し、連邦の外交部と地域政府の経済部は同一の建物に集約することで合意されている。これにより、あらゆるサービス提供が一カ所で受けられる、いわば「ベルギーハウス」を海外に設置することを目指している。
2. 経済的理由：より現実的な理由として、様々な機関を一カ所に集約することで、経費の節減に繋がり、追加でオフィスを賃貸する必要もなくなる。
3. 協力体制の構築：外交と経済は本質的に結びついており、ベルギーの場合は特にそれが明らかである。外交部と経済部は、適切な成果を達成するために協力して活動しているものの、行政の仕組みがそれを阻害することもあり得る。地域政府から派遣された経済担当官が同じポストに最大10年留まれるのに対して、連邦政府の外交官の任期は4年程度となっている。

このローテーションの違いによって、両者のコンタクトが失われてしまう可能性があるが、外交部と経済部が連携することにより、こうした問題を回避することができる。経済ミッションの実施に当たっても、外交部、経済部それぞれ固有のコンタクトを有していることから、この両者の強い連携が、ミッション成功には必要不可欠である。

しかしながら、両者は相互依存の関係にはなく、それぞれが異なるレベルの権限と管轄の下に置かれている。経済部を大使館の中に設置するという選択は、義務ではなくあくまで協力であり、何よりもまず戦略的な決定に基づくものである。

共同体政府

ベルギーの対外戦略に共同体政府も関与しているものの、経済分野については特段の関与はない。例えば、各共同体は、ベルギー国内のコミューンと海外の自治体との間で姉妹都市提携を締結することができるが、こうした合意は貿易分野には関係がないものになっている。ベルギー国内の組織ピラミッドにおいて、共同体政府は一定の自治を有しているものの、国際的な分野においてはその範囲は限られている。

3. 地域政府のアフリカでのプレゼンス

経済ミッション

王室ミッション

王室による経済ミッションは、ベルギー企業とアフリカの現地企業とのネットワークを構築することを目的として実施される。4～8日の期間で派遣される王室ミッションは、公的な側面と経済・商業的な側面の2つの側面からのアプローチが行われる。

ベルギー王室のメンバーが団長を務め、まずB2B、B2Gのミーティングが実施される。これらのミーティングは、連邦対外貿易庁、ワロン、ブリュッセル首都圏、フランダースの各貿易投資促進機関と現地のベルギー大使館により共同で実施される。これにより、ベルギー企業は現地当局者と会う機会が持てるだけでなく、ミーティングをきっかけにして大規模な公共調達や公式なパートナーシップの締結に繋がるケースも見られる。更に、ベルギー企業が関心のある現地企業と会い、その後インフォーマルな枠組みで協議を継続することで、契約に繋がることもある。

ベルギー企業および現地企業への情報提供の一環として、ミッション中にはセミナーが開催されることがある。セミナーを通じて、現地関係者はベルギー企業のノウハウを理解するとともに、ベルギー企業は現地政府の優先課題や進行中のプロジェクトについて理解を深めることができる。

ミッションに王室メンバーが参加することによって、よりハイレベルなミーティングが実現でき、通常の経済ミッションでは実現できないようなコンタクトが実現できることもある。また、こうしたミッションにはベルギーの大企業は常に参加するが、彼らにとっては、重要な案件の締結を広報するための機会にもなる。加えて、現地およびベルギーでの報道も大規模に行われる。

王室ミッションにとって、ネットワーキングは非常に重要な要素であり、ワーキング・ブレックファスト、ランチ、ディナー、レセプションなどの形式を取って開催される。フォーマルになりすぎない雰囲気を作りつつ、国家元首や閣僚、ビジネス関係者を招くことで、イベントの格式が高まり、結果的にイベントを成功裡に終えることができる。

今後予定されている王室ミッションは以下：

アストリッド王女を団長としたセネガルミッション（2022年6月5～8日予定）

地域/プライベートミッション

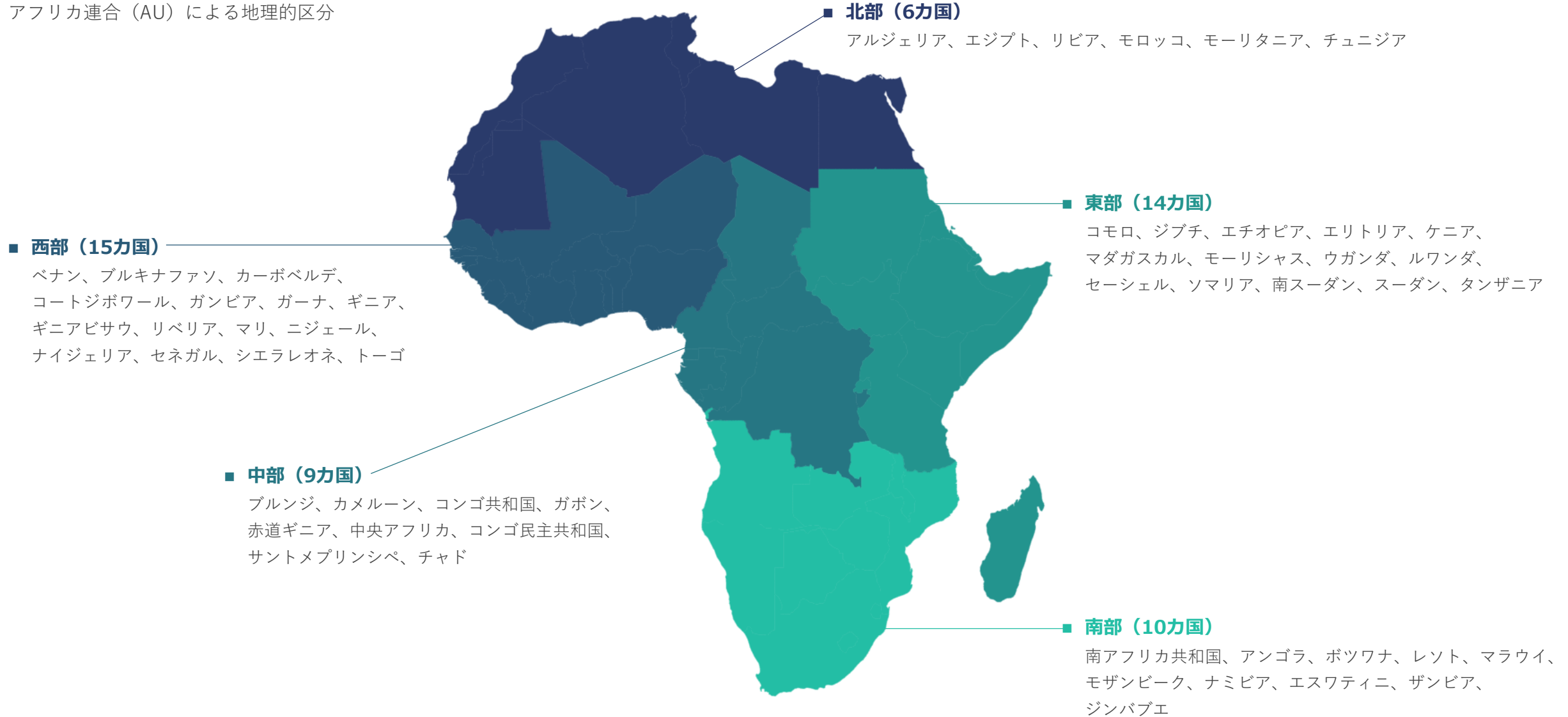
格式の問題を除いては、王室ミッションとそれ以外のミッションに大きな違いは見られない。地域政府によって主催される経済ミッションは、1～2年前からアクションプランに盛り込まれており、派遣国については、各地域の利害に基づき、合意の上で決定する。

ミッション派遣の第一段階は、関係者への情報の周知から開始される。ビザなどの領事関連の手続きの円滑化のため、派遣国のベルギー大使館と連絡を取るとともに、派遣国のカウンターパート機関（貿易投資促進機関など）と協力、また、現地の経済担当官ともコンタクトを開始する。

地域政府によるミッションは、各地域政府の大臣が団長として参加することが多いが、これは対象国への進出に際して企業に対して政治的な支援を最大限行うという意思表示のためでもある。ミッションはより小規模、またはセクターを限定して実施されることもあるが、その方がより柔軟で融通がきくため、効率的でかつ成果が出ているとも言える。

4. アフリカの地理的区分

アフリカ連合（AU）による地理的区分



4. アフリカの地理的区分

以下では、ベルギーが重要な経済的・二国間関係を有する国について記載する：

中部アフリカ

アンゴラ

ベルギーはアンゴラにとって欧州で2番目の輸入相手国（世界では4番目）で、鉱物製品、化学品、機械・設備を中心に輸出。2019年の輸出額は4億9,120万EUR。

2013年には、アンゴラと南アフリカ共和国に王室ミッションを派遣し、300名以上の企業経営層・政府関係者が参加、外交的にも経済的にも成功を収めたミッションとなった。ベルギーにとってアンゴラは、地域的な問題のパートナーとしても、経済的なパートナーとしても、重要な位置を占めている。アンゴラは、原油、天然ガス、ダイヤモンド、金、鉄、コバルト、花崗岩、大理石、ウランなど、石油・鉱物資源の大きな埋蔵量を有するだけでなく、地理的・地形的な要因により、漁業、農業などの一次産業、水力発電、太陽光発電、バイオエタノールなどの自然エネルギー分野で可能性を有している。

有望セクター

石油関連産業、鉱物資源開発、銀行・保険、醸造業、情報通信、建設業、電気、水、農業・漁業、商業

コンゴ民主共和国

ベルギーはコンゴ民主共和国（以下DRC）にとって欧州で最大の輸入相手国（世界では4番目）で、主に化学品、機械・設備、鉱物製品を輸出しており、2019年のベルギーからの輸出額は3億2,160万EURに上る。サブサハラアフリカで最大の国土面積を持つDRCは、大陸で最大の水力発電のポテンシャルを有しており、地下には貴重な鉱物資源が埋蔵されている。しかしながら、インフラの不足と複雑なビジネス環境によって、これらの特筆すべき経済的なポテンシャルが十分に活用されているとは言い難い。

ベルギーは、政府レベルでも市民レベルでも、多面的で豊かな関係をDRCと維持しており、それは経済、政治、文化、軍事の分野で見えてとることができる。また、ベルギーにとってDRCは開発協力の主要なパートナー国であり、二国間援助においては3番目のドナー国となっている。長きにわたり、ベルギーの対DRC政策は、国民の社会・経済状況の改善、平和の推進、グッドガバナンスと透明性、ビジネス環境改善、法治国家の強化、人権尊重、不処罰に対する活動が中心となっている。ベルギーは、これらの目的の達成に向けて、相互の尊重に基づく対等なパートナーシップの下、オープンで公平な対話を目指している。ベルギーの連邦議会には、特別コンゴ委員会が設置され、植民地期の係争について和解のための議論が行われている。

Enabelは2000年以降、主に地方で、農業・農村開発、教育、保健の分野でDRC政府と密接に連携し活動を行っている。なお、これらの対象分野は、DRCの政治的な優先順位に基づき決定されている。

有望セクター

鉱物資源開発、エネルギー、輸送、情報通信、観光、保険、農業・農産品加工、保健、加工産業、デジタル、インフラ

4. アフリカの地理的区分

カメルーン

ベルギーはカメルーンにとって欧州で2番目の輸入相手国で、主に輸送機器、機械・設備、繊維製品を輸出しており、2019年のベルギーからの輸出額は2億9,190万EURに上る。

カメルーンはチャド湖を中心としたサヘル周辺の中部アフリカ諸国において、ベルギーにとって伝統的に経済的重要国であり、政治的安定性の象徴とされる。近年はサヘル地域でのイスラム教過激派組織の活動に直面しており、近隣国から多数の難民を受け入れている。また、2016年以降は西部の英語圏地域で抗議活動が起こり、武装した分離独立主義者による活動もみられる。ベルギーは、カメルーンにおいて様々な分野の開発プロジェクト（上水、公共工事、農食品産業等）にファイナンスを行っている。両国は貿易の拡大にも力を入れるとともに、カメルーンはビジネス環境の改善やベルギーを始めとした外国投資の誘致に注力している。

有望セクター

農業、漁業、畜産業、林業、観光業、鉱業、炭化水素関連産業、エネルギー、情報通信、上水、輸送

コラム

ベルギーは、鉱物製品（石油精製品や瀝青などの副産物）の輸出国で、2019年は輸出総額の8.8%、2018年は10.1%を鉱物製品が占めている（2020年9月までの統計では6.2%）。他方で、原油など一次資源の輸入は輸入総額の12.9%で、それらを精製し、上述のように輸出している。概してベルギーは、医薬品や燃料など高付加価値製品（完成品・半製品）の輸出に特化している。

ガボン

ベルギーはガボンにとって欧州で2番目の輸入相手国（世界では3番目）で、主に機械・設備、化学品、繊維製品を輸出しており、2019年のベルギーからの輸出額は1億2,700万EURとなっている。

ガボンは、アフリカ大陸で9番目の原油生産国であり、サブサハラアフリカで2番目の木材生産国、世界最大のマンガン生産国でもあるなど、自然および鉱物資源の豊かさが経済の原動力となっている。今日では、外国投資の誘致による経済の多角化を目指している。

近年、ベルギーとガボンとの間では特別な軍事協力が行われており、「トロピカル・ストーム」の名の下で2年毎にガボン国内の森林地帯で軍事訓練が行われている。ブリュッセル自由大学、ブリュッセル大学病院との医療・軍事協力の成果もあり、リーブルビル軍病院には十分に訓練を積んだ軍医・外科医が在籍している。

有望セクター

農業、医薬品、デジタル、光ファイバー、3G/4Gネットワーク（都市圏）、観光業、公共インフラ開発、パームオイル

4. アフリカの地理的区分

コンゴ共和国

ベルギーはコンゴ共和国にとって欧州で2番目の輸入相手国（世界では3番目）で、主に機械・設備、化学品、輸送機器を輸出している。2019年のベルギーからの輸出額は9,020万EUR。

大湖地域の安定は、大湖地域国際会議（ICGLR）加盟国との積極的な外交関係の再開に繋がることから、2018年にはブラザビルに大使館を再設置。近年、同国との経済交流に関心が高まっており、コンゴ川を挟んだ首都間（ブラザビル、キンシャサ）に大規模な交通インフラを整備する計画があるなど、投資対象としての魅力を増している。

ポワント・ノワール港は近年リノベーションされ、ギニア湾で最も近代的な港の一つとなり、アフリカ中部地域における海上輸送の重要な中継拠点となっている。

有望セクター

農産品加工、漁業、畜産業、下水・廃棄物処理、工業、エネルギー、情報通信、運輸・ロジスティクス、観光業、銀行

ルワンダ

ベルギーはルワンダにとって欧州で3番目の輸入相手国で、主に化学品、機械・設備、輸送機器を輸出しており、2019年の輸出額は5,560万EURとなっている。

ルワンダは人口密度が高く、農業に強く依存する経済から脱却し、サービス産業主体の経済に多角化させようとしている。

安定した民主主義と社会経済的な発展を両輪として、ベルギーはルワンダへの開発協力を実施しており、二国間協力においてルワンダはベルギーにとって2番目の援助国となっている。加えて、政治・報道の自由やNGOの状況についての対話にも関与している。

ベルギーは大湖地域における平和と安定を優先課題としており、コンゴ民主共和国とルワンダとの対話の仲介やその他地域的イニシアティブへの取り組みなどを、ICGLRやEACを通じて実施している。

Enabelは2019～24年の両国間パートナーシップの下、保健、都市化、農業、職業訓練、（特に公的財政管理の）キャパシティビルディングなどのプログラムを実施している。

有望セクター

農業、通信、輸送、エネルギー、上下水道

4. アフリカの地理的区分

ブルンジ

ベルギーはブルンジにとって欧州で最大の輸入相手国（世界で5番目）で、主に化学品、機械・設備、野菜類を輸出しており、2019年の輸出額は2,730万EUR。

ブルンジの経済は多角化が進んでおらず、第一産業（特に農業）に依存する構造になっている。そのため輸出産品は、コーヒーや紅茶などの伝統的な産品が主体となっている。

両国の歴史的な関係性を鑑みると、ブルンジの状況はベルギーの外交政策にとって主要な関心事項であると言える。2015年、ンクルンジザ大統領（当時）の三選を巡ってブルンジは政治的危機に陥り、EUは2016年、開発援助を一時的に停止する措置を取り、ブルンジ政府に対して政治的な開放と人権における進展を要請した。現在まで目立った進展はないものの、EUは引き続き協議の再開を目指している。

2020年にエヴァリスト・ンダイシミア大統領が当選したことで、状況の改善と外交関係の正常化に期待が持たれる。様々な困難はあるものの、ベルギーは引き続きブルンジへのコミットメントを行っており、多くのベルギーNGOも現地で活動している。ネットワークと豊富な経験に基づき、同国の政治的・経済的な危機から脱却を目指すという点において、ベルギーは国際社会で主導的な役割を果たしている。

有望セクター

農業、軽工業、鉱工業開発、サービス

中央アフリカ

ベルギーは中央アフリカにとって欧州で2番目の輸入相手国で、主に化学品、機械・設備、繊維製品を輸出している。2019年の輸出額は1,900万EUR。

国際貿易に門戸を開きつつも、相対的に高い関税や、特に農産品に対して高い保護関税を適用するといった中央アフリカ政府の保護主義的な政策によって、貿易の経済効果は制限されている。国内市場へのアクセスを容易にする一方で、特惠関税を認めていないのが現状である。

ベルギーは、中央アフリカの和平と安定化を支援しており、2019～20年にベルギーが国連の非常任理事国を務めた際には、武器の禁輸措置の実施や、和平プロセス・国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッション（MINUSCA）を妨害する人物に対する制裁メカニズムの構築に尽力した。また、EUの支援の下設置されたトレーニングやアドバイザーのミッションに対しては、ベルギーが現地で積極的な協力を行っている。

中央アフリカにおいてはEnabelが積極的に活動を行っており、UNDPやEUと共同で、グッドガバナンスの他、金やダイヤモンドの持続可能かつ透明性のある採掘について支援を行っている。また、2019年2月に署名されたバンギ和平協定の当事者であるバンギの宗教コミュニティと14の武装勢力の調停活動に対して、資金援助も行っている。

有望セクター

セメント、建設、畜産業（牛）、林業、水力発電、石油、ウラン

4. アフリカの地理的区分

南部アフリカ

南アフリカ共和国

ベルギーは南アフリカ（以下南ア）にとって欧州で6番目の輸入相手国で、主に化学品、機械・設備、鉱物製品を輸出、2019年の輸出額は13億EURとなっている。

シリル・ラマポーザ大統領の就任以降、ベルギーと南アの二国間関係は、経済、開発、学術、文化といった幅広い分野で新たな動きを見せている。レインダース外務大臣（当時）やド・クロー開発担当大臣（当時）の南ア訪問や、ラマポーザ大統領の訪白はこうした関係構築の証左で、南アはベルギーにとって重要な貿易パートナーである。また、2019～20年には国連の非常任理事国を共に務めている。こうした背景から、FIT、AWEX、フランダース政府などが南アに拠点を構えており、「ベルギー・インダバ」と称して、両国関係者が戦略的な議論を行うための会議を毎年開催している。

南アはアパルトヘイト以降、安定した司法制度と政治環境を維持しており、アフリカ大陸において安全な国と評価できる。EUと南部アフリカ開発共同体（SACD）とのEPA発効に伴い、南アを始めとして欧州からの輸出品の約90%が免税となった。3,500億米ドルのGDPと約5,500万人の人口を有する南アは、南部アフリカのエントリーポイントとしての地位を確立しており、ベルギー企業にとってはそれが何よりの魅力である。開発協力分野では、NGOやフランダース赤十字などが活動している。現地のベルギー人コミュニティは約1万人を数え、多くのベルギー企業が投資を行っている。

有望セクター

運輸、エネルギー、工業、建設、医薬品、医療機器、農業・農産品加工業、情報通信、サービス

ジンバブエ

ベルギーはジンバブエにとって欧州で6番目の輸入相手国で、主に化学品、機械・設備を輸出しており、2019年の輸出額は1,540万EURとなっている。

ジンバブエは、ダイヤモンド、金、石炭、鉄鉱石、ニッケル、銅、リチウム、スズ、プラチナなどの豊かな鉱物資源を有している。また農業分野ではタバコの生産が主で、第2の外貨収入源になっている。このようにジンバブエの経済は鉱業と農業に大きく依存した構造となっている。

有望セクター

農業、鉱物資源開発、観光業、運輸、建設

モザンビーク

ベルギーはモザンビークにとって欧州で5番目の輸入相手国で、主に鉱物製品と化学品を輸出しており、2019年の輸出額は9,270万EURとなっている。

二国間の開発協力に加えて、NGO4団体の現地での活動を支援している他、2019年にはマチルド王妃が国連のSDGsアンバサダーとしてモザンビークを訪問している。

モザンビークはサブサハラアフリカの中でも急速に経済成長を遂げている国の一つだが、こうした経済成長と、大多数の国民の生活水準の向上や雇用へのインパクトには大きなギャップがあり、ベルギーの開発支援は貧困削減を主体とした活動となっている。そのため、Enabelの現地での活動は農業、農村開発、再生可能エネルギー、保健分野を主体としたものとなっている。

有望セクター

ガス関連産業、エネルギー、ナカラ回廊開発、建設・インフラ

4. アフリカの地理的区分

東部アフリカ

エチオピア

ベルギーはエチオピアにとって欧州で5番目の輸入相手国で、主として機械・設備、化学品、輸送機器を輸出している。2019年の輸出額は2億810万EUR。

エチオピアは東アフリカで第2の経済規模を誇り、エチオピア政府はインフラや工業開発のために大規模な公共投資政策を行っている。東南部アフリカ市場共同体（COMESA）加盟国であるものの、22カ国が参加する自由貿易協定を完全には履行していない。

アディスアベバはアフリカにおける国連機関の主要な活動拠点の一つであり、54カ国が加盟する国連アフリカ経済委員会（ECA）の本拠地が置かれている。また、アフリカ連合（AU）の本拠地も置かれている。エチオピアの政治プロセスの進展は、特に2018年にアビィ・アハメド首相が就任して以来、ベルギーの大きな関心事項となっている。両国の関係は古く、貿易関係も特筆に値する。エチオピア航空はブリュッセルとリエージュ（貨物便）に就航しており、ベルギー企業は、特に園芸、果実、ビール醸造の分野に進出している。また、大学間協力やベルギー熱帯医学研究所の活動など、学術分野での協力関係も構築されている。加えて、エチオピア政府によって毎年開催されているアフリカの治安に関するタナ・ハイレベル・フォーラムにもベルギーは参加し、資金拠出を行っている。

有望セクター

通信、金融サービス、医療インフラ・機器、医薬品、観光業、農業・農産品加工関連機材、エネルギー、工業、空運、上下水、廃棄物処理

ケニア

ベルギーはケニアにとって欧州で6番目の輸入相手国で、主に化学品、鉱物製品、機械・設備を輸出、2019年の輸出額は1億3,650万EURに上る。

ケニアは、サブサハラアフリカで4番目の経済規模を誇り、東部アフリカにおけるハブとして位置づけられる。また、ケニアはFinexpoのアフリカで最大の資金供与先国となっており、ベルギーはFinexpoを通じて集水場の建設、消防車や医療廃棄物処理装置の輸入など、総額2億EURに上る約15のプロジェクトに資金供与を行っている。また、大学間連携にも力を入れており、特にフランダース海洋研究所は現地で積極的に活動を行っている。SDGsの活動およびベルギーUNICEFの名誉総裁として、2018年にはマチルド王妃が現地を訪問している。

ケニアでは、東アフリカにおける建設業界の主要な見本市である「The Big 5 Construct Kenya」が開催されており、同セクターのビジネスプラットフォームとして機能している。当該展示会には200社以上が出展し、ベルギーもナショナルパビリオンを設置している。3日間に渡って開催されるこの見本市には、数千人が来場し、建設業界のディビジョン・メーカー含め、関係者が一度に会する場となっている。

有望セクター

金融サービス・モバイルペイメント、小売、Eコマース、サイバーセキュリティ、ビッグデータ・ブロックチェーン・IoT・AI、医薬品、医療機器、畜産業、農産品加工用機械、エネルギー、環境（廃棄物処理）、建設、鉄道・都市交通

4. アフリカの地理的区分

スーダン

ベルギーはスーダンにとって欧州で5番目の輸入相手国で、化学品、輸送機器、紙・厚紙を輸出している。2019年の輸出額は7,140万EUR。

2019年8月に移行政権が発足し、政治・経済的にダイナミズムが戻りつつある。2017年10月には米国の経済制裁が解除され、2020年にはテロ支援国家リストから除外されたことで、スーダンの銀行は再び米ドル取引ができるようになった。スーダンの経済は、鉱物や原油などの地下資源や農業に大部分を依存しているものの、現状は耕作可能な土地のわずか25%しか活用されていない。

ベルギーは、アンタイドローンを通じて飲料水分野で2007年から現在に至るまで数段階に分けて支援を行っており、給水のためのポンプ2,678基を遠隔地域に設置した。こうした支援は、2020年6月にベルリンで開催されたスーダン・パートナーシップ会議でも報告された。

有望セクター

農業、農産品加工、銀行・金融サービス、エネルギー、港湾・鉄道・道路インフラ、医薬品、医療機器、鉱物資源開発、通信、観光

西部アフリカ

ナイジェリア

ベルギーはナイジェリアにとって欧州で2番目の輸入相手国（財貨／世界で5番目）で、主に鉱物製品、機械・設備、化学品を輸出しており、2019年の輸出額は25億EURに上る。

ナイジェリアは、アフリカ大陸で最大の人口を抱え、経済規模でも南アフリカ共和国を超え、アフリカ最大の経済大国となっている。ラゴス州だけでもアフリカ大陸で3番目の経済規模に相当する。首都のアブジャには、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）の本部が置かれているが、ECOWASは地域統合、民主化、紛争処理で実績を有している。

有望セクター

石油産業、建築資材、機械、メディア・映画産業（ノリウッド）、農業・農産品加工、小売・流通、モード・コスメ、Eコマース、バイオエンジニアリング、輸送管理、環境保護、水処理、発電・送電

4. アフリカの地理的区分

トーゴ

ベルギーはトーゴにとって欧州で最大の輸入相手国で、主に鉱物製品、輸送機器、食料品を輸出しており、2019年の輸出額は9.173億EUR。

トーゴはその地理的な位置から、3.6億人のマーケットである西アフリカのエントリーポイントと考えられている。陸路（アビジャンーラゴス回廊）、空路（近代的な空港から多くの国際線定期便が就航）、海路（ロメ自治港：西アフリカで唯一の深海港で最新型の船舶が寄港可能なインフラを備え、近隣の西アフリカ諸国に航路）が交わる場所に位置している。こうした有利な地理的条件に加え、様々なビジネス機会に恵まれていることから、トーゴはベルギー投資家にとってのデスティネーションの一つになっている。

有望セクター

農業・農産品加工、エネルギー・村落電化、鉱物資源開発、インフラ、デジタル経済

コートジボワール

ベルギーはコートジボワールにとって欧州で3番目の輸入相手国で、主として輸送機器、機械・設備、鉱物製品を輸出しており、2019年の輸出額は2億7,420万EUR。

ベルギーは、コートジボワールにとって主要な欧州の経済パートナーで、2017年には王室ミッションを派遣し135社が参加、その後も各地域が主体となり定期的にミッション派遣を行っている。サービス、港湾、農食品工業を中心として、多くのベルギー企業が進出している。

西アフリカのフランス語圏アフリカ最大の経済大国として、コートジボワールの経済は地域で最も多角化が進んでいる。質の高いインフラと恵まれたビジネス環境により、コートジボワールは地域のハブとしての地位を確立しており、西アフリカで事業展開を希望する企業にとっては絶好の場所となっている。

カカオ生産量においては世界の40%を占め、世界最大のカカオ生産国であり、ベルギー向けにも多くのカカオ豆や半製品を輸出している。ベルギーは、Beyond Chocolateというイニシアティブの下、チョコレートメーカー、小売、政府当局、大学、NGOなどの複数の関係者が参加するプラットフォームを立ち上げており、2025年までに100%サステナブルなベルギーチョコレートを作り、2030年にはカカオ・バリューチェーンの全ての生産者に適正な価格を保証、森林破壊をストップさせることを目標として取り組みを行っている。

有望セクター

通信、農業・農産品加工、インフラ、港湾、陸上輸送、エネルギー、教育・スポーツ、環境・水、保健、消費財、観光

4. アフリカの地理的区分

セネガル

ベルギーはセネガルにとって欧州で3番目の輸入相手国で、主に鉱物製品、輸送機器、機械・設備を輸出、2019年の輸出額は7億4,160万EURに上る。

セネガルは、域内有数の観光地であり、ブリュッセル航空がブリュッセルーダカール間の直行便を就航させている。ベルギーは、港湾分野を中心にビジネスにおいて高い存在感を示している。

フランス語圏西アフリカで2番目の経済規模を誇るセネガルは、経済成長を加速させている。西アフリカのエントリーポイントを目指し、セネガル振興計画（2019–2023）に盛り込まれた優先度の高いアクションプランは、外国人投資家にとって多くのビジネス機会を提供している。

ダカール、ティエス、ンブールの間の2,000haの土地に建設されているジャムナジョ新都心は、新たに敷設された鉄道（TER）が走り、次のような様々なプロジェクトが計画されていることから、企業にとって新たなビジネス機会を提供するものとなっている：

デジタルテクノロジーパーク、4,000戸の住居、10棟のホテル、工業・商業エリア開発、公官庁エリア開発、大学病院、10校の私立大学、スタジアム、競馬場、アミューズメントパーク、ゴルフ場等。

また、沖合に油田・ガス田が発見されたことに伴い、新規の石油・ガスの採掘権の付与を行っている。中部のカフリン、ファティック、カオラック地方では、300の村落を対象とした村落電化プログラムが間もなく開始される。

観光分野では、土地整備・沿岸地域・観光エリア振興会社（SAPCO）が、2022年までに北部のルガ地方で、観光開発とその整備を行う予定。

Enabelは2019年から23年の二国間協力に従って、保健、起業、キャパシティビルディングの分野でプロジェクトを実施している。

有望セクター

通信、銀行・金融・保険、流通、サイバーセキュリティ、医薬品、医療機器、農業資機材、畜産業、交通インフラ、エネルギー、炭化水素関連産業、建設・インフラ、鉱工業

5. 経済地域分類

アフリカ大陸自由貿易圏（AfCFTA）

AfCFTAはアフリカ大陸で最も新しく設立された経済協定で、2021年1月1日に運用が開始された。AfCFTAの目的は、世界で最大の自由貿易圏を構築し、人口12億人、GDP2.5兆米ドルのマーケットを開放することにある。多くの製品の価格競争を促しつつ、新たなビジネス機会や雇用機会が創出されることが期待される。

本協定には54カ国・地域が署名しており、90%の品目について10年をかけて漸進的に関税を撤廃される予定（今後5年以内にタリフラインベースで90%の関税を撤廃することとしており、残りのうち7%のセンシティブ項目は10年以内に撤廃、3%は撤廃の対象外としている。また、加盟国でも域内のLDC諸国は10年以内に90%、13年以内に7%のセンシティブ項目の関税撤廃。その中でも、エチオピア、マダガスカル、マラウイ、スーダン、ザンビア、ジンバブエの6カ国は90%の関税撤廃の猶予期間が15年間に設定されている）。

中部アフリカ諸国経済共同体（ECCAS）

10カ国が加盟（以下）。中部アフリカの経済、社会、文化的な発展と共同市場の設立を目指して設立。域内人口は1.2億人、域内GDPは2,570億米ドル。

加盟国：

アンゴラ、ブルンジ、カメルーン、ガボン、赤道ギニア、中央アフリカ、コンゴ民主共和国、コンゴ共和国、サントメプリンシペ、チャド

西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）

1975年に設立され、15カ国が加盟。工業、運輸、通信、エネルギー、農業、天然資源、貿易、金融・財政、社会・文化といった経済のあらゆる分野における地域統合を図るために設立された。地域安定化も目的としており、ECOMOGと呼ばれる停戦監視と平和維持のための軍隊組織を有する。域内GDPは5,650億米ドル。

加盟国：

ベナン、ブルキナファソ、カーボベルデ、コートジボワール、ガンビア、ガーナ、ギニア、ギニアビサウ、リベリア、マリ、ニジェール、ナイジェリア、セネガル、シエラレオネ、トーゴ

東南部アフリカ市場共同体（COMESA）

1994年に設立された東部アフリカを中心とした組織。加盟する21カ国で関税同盟を設立し、域内の自由貿易を促進することを目的としている。域内人口は4.75億人、域内GDPは6,770億米ドル。本部はザンビアのルサカに置かれている。

加盟国：

アンゴラ、ブルンジ、コモロ、ジブチ、エジプト、エリトリア、エスワティニ、エチオピア、ケニア、リビア、マダガスカル、マラウイ、モーリシャス、ウガンダ、コンゴ民主共和国、ルワンダ、セーシェル、スーダン、南スーダン、ザンビア、ジンバブエ

6. ベルギーのアフリカ主要国への輸出額

中部アフリカ

輸出先国	輸出額（100万EUR）		増減 （2019年／2020年）
	2019年	2020年	
アンゴラ	491.2	222.5	-54.7%
コンゴ民主共和国	321.6	374.3	+16.4%
カメルーン	291.9	281.9	-3.4%
ガボン	127.0	109.8	-13.6%
コンゴ共和国	90.2	79.9	-11.5%
ルワンダ	55.6	66.9	+20.3%
ブルンジ	27.3	27.5	+0.7%
中央アフリカ	19.0	28.0	+47.1%

南部アフリカ

輸出先国	輸出額（100万EUR）		増減 （2019年／2020年）
	2019年	2020年	
南アフリカ	1,300	1,200	-7.1%
ジンバブエ	15.4	15.1	-1.7%
モザンビーク	92.7	148.5	+60.2%

東部アフリカ

輸出先国	輸出額（100万EUR）		増減 （2019年／2020年）
	2019年	2020年	
エチオピア	208.1	206.3	-0.9%
ケニア	136.5	230.7	+69.0%
スーダン	71.4	67.5	-5.5%

西部アフリカ

輸出先国	輸出額（100万EUR）		増減 （2019年／2020年）
	2019年	2020年	
ナイジェリア	2,500	1,400	-41.4%
トーゴ	917.3	190.5	-79.2%
セネガル	741.6	515.5	-30.5%
コートジボワール	274.2	320.4	+16.9%
ベナン	95.5	103.3	+8.2%

	企業名	主な進出国	分野	ビジネス概要
1	ABC CONTRACTING	ブルンジ、コンゴ共和国、コートジボワール、モーリタニア、コンゴ民主共和国、中央アフリカ、ルワンダ	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー・環境 	<ul style="list-style-type: none"> ● 送電線架設 ● 変電所建設 ● 配電（低圧電力） ● 最終消費者向けの電力メーター設置
2	ANTWERP WORLD DIAMOND CENTER	全世界に輸出	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイヤモンド関連ビジネス（B2B向けの展示会、ネットワーキングイベント、ワークショップの開催）
3	APPRO-TECHNO	世界110カ国（内8割がアフリカ）	<ul style="list-style-type: none"> ■ インフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種建築資材製造機械（村落向けレンガ工場用機材、タイル製造機材など、電動・半電動）：主に建築資材製造の中小・零細企業向け
4	BENOIT KANYANDEKWE (BK) ARCHITECTS	赤道ギニア、ケニア、モザンビーク、コンゴ民主共和国	<ul style="list-style-type: none"> ■ インフラ ■ トレーニング・コンサル 	<ul style="list-style-type: none"> ● アフリカを中心に活動する建築・エンジニアリング企業 ● 国際規格に則ったプロジェクト提案 ● マスタープランの立案からプロジェクト管理まで対応 ● オフィス、病院、スポーツインフラ、ホテルの他、港湾、空港、橋梁、高速道路などの土木分野にも知見 ● 赤道ギニア、ケニア、モザンビーク、コンゴ民主共和国にオフィス
5	BESIX	西部アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ インフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大手ゼネコン。高品質かつ経済性のある建築ソリューションを提案 ● 各種建築物の他、橋梁、スタジアム、遊園地、港湾・空港などの大型インフラ建設の他、不動産開発も手掛ける
6	BIA OVERSEAS	ブルキナファソ、ブルンジ、カメルーン、コートジボワール、ギニア、ニジェール、ルワンダ、コンゴ民主共和国、セネガル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ インフラ ■ 鉱業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共工事、鉱山・採石、リサイクル、産業処理、林業向けの産業用機械の販売 ● ジェネレーターの販売・設置
7	BICS	全アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> ■ インフラ ■ 通信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界有数の音声通信・モバイルデータサービスのプロバイダー ● 光ファイバー、海底ケーブル、通信衛星など178カ国をカバーするネットワークインフラを所有 ● ガーナ、ケニア、南アフリカに現地オフィス

	企業名	主な進出国	分野	ビジネス概要
8	BMI GROUP	南アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー・環境 ■ インフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 屋根用資材、防水材の大手メーカー ● 屋根・ルーフトラス、断熱システム、煙突、オープン、換気システム用の各種建築資材・付属品の製造・販売 ● 太陽光発電設備の設置
9	BYBLOS	コートジボワール、ガーナ、ナイジェリア、セネガル、スーダン、その他西部アフリカ諸国	<ul style="list-style-type: none"> ■ 金融 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人・事業者向けの銀行サービスの提供 ● 国際金融公社（IFC）、フランス開発庁（AFD）、PROPARCO（フランスの開発金融機関）とも連携
10	CHANIC	中部アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ インフラ ■ 鉱業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 造船、鉄骨工事、エレベーター、空調工事 ● 鉱山機械、建設資材の販売
11	COLRUYT GROUP	ベナン、コンゴ共和国、マリ、ウガンダ、ルワンダ、コンゴ民主共和国、セネガル、その他西部アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 	<ul style="list-style-type: none"> ● ベルギー最大の小売・卸事業者 ● グループ会社のColruyt Export（Colex）を介して4,500種類以上の製品を輸出入（陸路・空路・海路）
12	COPPIETERS CHEMICALS	カメルーン、コートジボワール、ケニア、セネガル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ 化学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 化粧品、洗剤、塗料、接着剤、インク、プラスチック、食品、繊維製品向けの原料、化学品をアフリカ各国で供給
13	CYPRESS DIAGNOSTICS	ベナン	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ 医療 	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床検査機関向けの検査機器・試剤の製造・販売 ● 検体取扱い用の資機材、分析機械、試薬など ● 検査結果提供のためのソフトウェア・プラットフォームも提供
14	DEME GROUP	アンゴラ、ガーナ、ナイジェリア	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー・環境 ■ インフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 浚渫工事、オフショア・エネルギー開発工事、海洋・環境インフラ工事の世界的リーディングカンパニー ● 各プロジェクトに対応したテラーメイドの革新的なソリューション、新技術を安全、効果的かつコストパフォーマンスの高い方法で提供 ● 環境・気候変動対策では、海面上昇やCO2削減、水質・土壌汚染などに対するソリューションを提供 ● 近代的多目的船を100隻以上所有、付属設備も豊富に所有しており、世界各国で事業を展開

	企業名	主な進出国	分野	ビジネス概要
15	DENYS	カメルーン、コンゴ共和国、エチオピア、コートジボワール、ガーナ、リベリア、マリ、モザンビーク、ニジェール、チャド、ザンビア	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー・環境 ■ インフラ ■ 輸送 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多分野に渡る建設を手掛ける ● 水、エネルギー、モビリティ、建築物、修復工事の他、トンネル、水利工事、鉄道など
16	DESMET BALLESTRA GROUP	南アフリカ、ガーナ、ナイジェリア、コンゴ民主共和国	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー・環境 ■ 農業・食品加工 ■ 化学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 油脂・動物用飼料・化学品工場向けのエンジニアリング、技術供与、関連資機材納入
17	ECU WORLDWIDE	南アフリカ、アンゴラ、ベナン、ボツワナ、ブルキナファソ、ブルンジ、カメルーン、カーボベルデ、エリトリア、コンゴ共和国、コートジボワール、ジブチ、ガボン、ガンビア、ガーナ、ギニア、ケニア、レソト、マダガスカル、マラウイ、マリ、モーリシャス、モザンビーク、ナミビア、ニジェール、ナイジェリア、ウガンダ、セネガル、コンゴ民主共和国、ルワンダ、ザンビア、シエラレオネ、エスワティニ、タンザニア、トーゴ、ジンバブエ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 輸送 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界規模の非船舶運航業者（NVOCC） ● 世界160カ国に300以上のオフィスを展開し、LCL、FCLのサービスを提供 ● 直行ルートは2,400以上にのぼり、LCLサービスでは世界最大級のネットワーク ● 航空貨物サービスも提供
18	EXPHAR	ブルンジ、カメルーン、ルワンダ、コートジボワール、ナイジェリア、	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ 医療 	<ul style="list-style-type: none"> ● 抗寄生虫薬、鎮痛剤、代謝／ビタミン剤などの医薬品の輸出
19	FIB BELGIUM	ウガンダ、モザンビーク	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ エネルギー・環境 ■ インフラ ■ 化学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鋼線材、狭幅鋼帯の加工用設備の世界的サプライヤー ● 独自開発のシステムは、混合ガスを熱源としており、炉内の気圧を十分にコントロールすることが可能 ● 世界60カ国以上の著名な企業（鉄鋼加工）に納入実績を持つ

	企業名	主な進出国	分野	ビジネス概要
20	FINASUCRE	コンゴ民主共和国	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ エネルギー・環境 ■ 農業・食品加工 ■ インフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 黒糖、白糖、精製糖、糖アルコール、甜菜糖の製造・販売 ● 再生可能エネルギー分野にも進出 ● グループ会社のGalacticは、製糖用設備の生産の他、生分解プラスチックや再生プラスチック生産のための研究設備の供給も行う
21	FORREST GROUP	南アフリカ、ケニア、コンゴ民主共和国	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー・環境 ■ 農業・食品加工 ■ 医療 ■ インフラ ■ 金融 ■ 鉱業 ■ トレーニング・コンサル 	<ul style="list-style-type: none"> ● 建設、電力、鉱工業、金属工業、アグリビジネス、土木、航空、食品加工、金融、貿易、医療など多岐にわたる事業の他、社会貢献活動も行う
22	FRISOMAT	中部、東部、西部、南部アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> ■ インフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工業、農業、スポーツ、レジャー等の用途の鉄骨建築物の建設
23	INTRACO	ルワンダ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ 農業・食品加工 	<ul style="list-style-type: none"> ● 動物用の濃厚飼料、飼料用プレミックス、プロテインミール、添加剤などの製造・販売
24	JAN DE NUL	南アフリカ、ベナン、ボツワナ、カメルーン、コートジボワール、ガーナ、モザンビーク、ナイジェリア、セネガル、シエラレオネ、エスワティニ、ジンバブエ	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー・環境 ■ インフラ ■ 鉱業 ■ 輸送 	<ul style="list-style-type: none"> ● 洋上エネルギー発電、水路の浚渫、港湾建設、土地の造成、難度の高いインフラ工事、建造物の建設など
25	JD EUROPE	コンゴ共和国、トーゴ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ エネルギー・環境 ■ 輸送 	<ul style="list-style-type: none"> ● 海上輸送および自動車、トラック、大型車、各種産業用機械の輸入を専門に行う企業

	企業名	主な進出国	分野	ビジネス概要
26	JOHN COCKERILL	コンゴ共和国	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー・環境 ■ インフラ ■ 化学 ■ トレーニング・コンサル ■ 輸送 	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー分野：コンバインドサイクル発電所向け排熱回収ボイラー、太陽熱ボイラー ● 武器：砲塔、シミュレーター ● 製鉄・鉄鋼：冷間圧延炭素鋼板用設備 ● 環境分野：産業廃棄物（固形、液体、気体）の処理設備の設置、エネルギー効率化のソリューション提供 ● その他産業分野
27	NEO-TECH	セネガル	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル・エコノミー ■ トレーニング・コンサル 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高等教育、技術教育、職業訓練等の各種教育機関、検査施設・ラボへの教育用機材（検査機器、計測機器、機械工学・土木工学・化学工学等の各種資機材）の販売およびトレーニング
28	Port of Antwerp	アフリカ全土（特に西部アフリカ）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ インフラ ■ トレーニング・コンサル ■ 輸送 	<ul style="list-style-type: none"> ● 港湾・ターミナル関連プロジェクトのコンサルテーション・管理：顧客は企業・港湾当局・政府など ● 港湾の拡張、リノベーション、新規開発等について、各国の港湾当局にアドバイスを提供 ● コトヌ港（ベナン）の運営を受託
29	PURATOS	コートジボワール、ジブチ、エリトリア、エチオピア、ケニア、ウガンダ、ソマリア、タンザニア	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ トレーニング・コンサル 	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務用製菓材・チョコレート類の生産 ● 製菓・パン業界向けのテストセンター、研究開発（イノベーション）センターの提供 ● コンサルテーション、トレーニングの提供
30	QGM HOLDING	カメルーン、ガボン、ギニア、セネガル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 医療 ■ インフラ ■ トレーニング・コンサル 	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療・社会公益施設の設計・建設 ● 医療および事務スタッフ向けの継続的な研修の実施 ● 医薬品分野での供給・管理・コンサルテーション
31	REMANT AFRICA	アフリカ全土	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ 農業・食品加工 ■ 化学 ■ 鉱業 	<ul style="list-style-type: none"> ● アフリカの既存の醸造所向けの原料等の供給、新規醸造所の建設 ● 車両、建設・鉱山機械、産業機械の保管と輸送 ● 卸・小売用製品の保管・流通農業用化学品・添加剤の輸送 ● NGOのアフリカ向けの人道支援物資の輸送

	企業名	主な進出国	分野	ビジネス概要
32	RENTEC	中部アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ インフラ ■ 化学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物、畜産副産物、食品の粉砕・リサイクル用機械の製造・設置 ● パームオイル搾油機の製造・設置 ● 産業用オートクレーブ、圧力機器、その他設備機材の製造・設置
33	SEA INVEST	コートジボワール、ガボン、ガーナ、ナイジェリア	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業・食品加工 	<ul style="list-style-type: none"> ● 港湾ターミナルオペレーター ● 荷役、貨物保管の他、その他港湾運營業務。物流、通関サービスも提供 ● ドライバルク、液体物、果実・食料品など様々取扱い
34	SIAT	コートジボワール、ガボン、ガーナ、ナイジェリア	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ エネルギー・環境 	<ul style="list-style-type: none"> ● パームオイル、天然ゴムなどの熱帯作物への投資を行うアグリ企業
35	SIEMENS	アフリカ全土	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ エネルギー・環境 	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー、医療、産業（用機器）、建物など ● 本社はドイツだが、アフリカでの情報通信、産業機器、輸送、空港の航空灯火システムなどはベルギー子会社が主としてオペレーションを担う
36	SOCFINCO	カメルーン、ガーナ、ギニア、リベリア、ナイジェリア、コンゴ民主共和国、サントメプリンシペ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業・食品加工 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品工業 ● パームヤシ、天然ゴムのプランテーションの開発と運営
37	SOTRAD SPRL	アフリカ全土	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 	<ul style="list-style-type: none"> ● 輸出入事業：家具、設備材、電子・情報通信機器、スペアパーツ、工具等
38	SOTRAD WATER	ブルキナファソ、コモロ、ガボン、コートジボワール、ギニア、マリ、モロッコ、セネガル、シエラレオネ、トーゴ	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー・環境 	<ul style="list-style-type: none"> ● 微生物に汚染された水の処理プラント、給水ステーション、貯水施設の開発、製造、販売、設置を行う

	企業名	主な進出国	分野	ビジネス概要
39	SOULDAL	世界138カ国（東部アフリカ中心）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ インフラ ■ 化学 	<ul style="list-style-type: none"> ● パテ材、接着剤、ポリウレタンフォームの欧州トップメーカーの一つ ● 主要製品はシリコン/その他パテ材、PUフォーム、接着剤、ハイブリッドポリマー、テクニカルエアロゾル、建築用化学品など ● 建築、工業用、小売用の3分野をターゲットに、自社製品を展開 ● 南アに製造工場
40	SOULCO	アフリカ全土	<ul style="list-style-type: none"> ■ 通信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報通信機器・サービスのインテグレーター ● アルジェリアとケニアに拠点
41	STEELFORCE	エチオピア、ケニア	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄鋼の流通・販売
42	STUDIOTECH	ニジェール、ナイジェリア、セネガル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ インフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 音響・映像のエンジニアリング：音響・映像機器の流通・販売・システムインテグレーション、設置、保守および関連プロジェクトの実施
43	SWALLOWTECH	ベナン、コートジボワール、トーゴ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 金融 	<ul style="list-style-type: none"> ● 金融セクター向けソフトウェアのサプライヤー
44	TECHNIQUES SPÉCIALES À L'EX- PORT (T.S.E)	アンゴラ、カーボベルデ、ギニア、ソマリア	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー・環境 ■ インフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 建設、土木、電気・水インフラ、道路など
45	TEXAF	コンゴ民主共和国	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル・エコノミー ■ インフラ ■ 鉱業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 不動産、鉱業の他、デジタル関連事業としてスタートアップ支援・投資も手掛ける
46	TPF	アルジェリア、アンゴラ、カメルーン、ブルキナファソ、カーボベルデ、マリ、コートジボワール、エジプト、チャド、ギニア・ビサウ、赤道ギニア、モロッコ、モーリタニア、モザンビーク、ニジェール、セネガル、チュニジア	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー・環境 ■ インフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● エンジニアリング：建物、交通インフラ、水、エネルギー

	企業名	主な進出国	分野	ビジネス概要
47	TRACTEBEL	南アフリカ、アルジェリア、アンゴラ、ブルキナファソ、カーボベルデ、コートジボワール、エジプト、エチオピア、ガーナ、ギニア、ケニア、マダガスカル、マラウイ、モロッコ、モーリタニア、ニジェール、セネガル、ナイジェリア、ウガンダ、タンザニア、チュニジア、ザンビア、ジンバブエ	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー・環境 ■ インフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水力、風力、太陽光、原子力、火力など各種発電所、ガスインフラ、電力システムなどのプロジェクトの設計・実施 ● 灌漑、給水、特殊構造の下水処理などにも知見 ● 70年以上の実績
48	TRANSAUTO	世界120カ国	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 	<ul style="list-style-type: none"> ● トヨタ車両のアフリカへの輸出：四駆、SUV、バス、トラック、大型車両など ● 輸出先の環境に応じてカスタマイズ（熱帯仕様、左ハンドルなど） ● 救急車両や装甲車への改造も行う
49	UNIBRA	ジブチ、エチオピア、ギニア、マダガスカル、モザンビーク、コンゴ民主共和国、ルワンダ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ インフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● アフリカでのSKOLブランドの醸造酒の生産・販売 ● プライベート・エクイティ投資や不動産投資も手掛け
50	VAN CUTSEM WIT-TAMER MARNEF & PARTNERS	ベナン、ブルキナファソ、カメルーン、コンゴ共和国、コートジボワール、ガボン、ギニア、マリ、ニジェール、中央アフリカ、チャド、コンゴ民主共和国、セネガル、トーゴ	<ul style="list-style-type: none"> ■ トレーニング・コンサル 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業活動のあらゆる分野に対応したビジネス・ローファーム ● ベルギー法および国際法に則したアドバイスおよび訴訟対応 ● 国際的なネットワークを有し、世界各国でサービス提供可能
51	VIASAT CONNECT (旧EMIXIS)	ベナン、ブルキナファソ、ブルンジ、カメルーン、コンゴ共和国、ジブチ、コートジボワール、ガボン、ガーナ、ギニア、マダガスカル、マラウイ、マリ、モーリタニア、ナイジェリア、ウガンダ、コンゴ民主共和国、ルワンダ、セネガル、南スーダン、チャド、トーゴ	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル・エコノミー ■ インフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● データ通信分野で欧州を代表するグループ企業 ● 企業・行政機関向けに車両、資材、設備の管理システム（トラッキングなど）を提供 ● 職場／現場での従業員の勤怠・勤務状況を遠隔管理可能なシステムの提供 ● 地場のディストリビューターと提携しアフリカ25カ国で事業展開

	企業名	主な進出国	分野	ビジネス概要
52	VMD LIVESTOCK PHARMA (INOVET)	エチオピア、ナイジェリア、 コンゴ民主共和国	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 ■ 農業・食品加工 	<ul style="list-style-type: none"> ● 動物用医薬品・健康食品の研究と製造 ● 世界各国で事業を展開
53	WORLD TELECOM LABS	ナイジェリア その他アフリカ30カ国超	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル・エコノミー ■ 通信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 携帯用インフラのサービスプロバイダー ● 携帯電話オペレーターが、遠隔地や通信環境が悪い場所で高度な無線サービスを提供するためのサポートを提供
54	ZINGAMETALL	アフリカ全土	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業・貿易・流通 	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業施設向けの金属防食コーティング剤（アクティブおよびパッシブ）の製造・販売



企業概要

1926年設立。アフリカのエネルギー分野のターンキープロジェクトの主要企業。

特に以下の分野に実績を有する：

中圧・低圧配電網、変電所（中圧・低圧）、再生可能エネルギー、火力・ハイブリッド発電所の建設・保守

ABC CONTRACTINGは、Anglo Belgian Corporation (ABC) のグループ会社で、アフリカ各国でエネルギー事業を展開。親会社であるABCは、エネルギー及び輸送機（船舶・機関車牽引用アプリケーション）用の中速ディーゼルエンジン（出力：600～10,400kW）の開発・製造で100年以上の実績を有する欧州の主要メーカー。

アフリカ7カ国に子会社を持ち、いずれの子会社にもエンジニアリング部門があり、現場での据付・組立にノウハウを持つ優秀なチームを備え、プロジェクト実施に当たって本社と緊密に連携している。アフリカでの火力発電所、ハイブリッド発電所、水力発電所、送電線の建設・設置について、イノベティブかつ最先端のソリューションを提供している。

資本面では、ABCはOGEPARグループの子会社。OGEPARは、資本金5,000万EUR、従業員数1,400人超のホールディングカンパニーで、大きく5つの事業分野において世界の3大陸で事業を行っている。アフリカ関連のプロジェクトは、主要な開発基金・開発援助機関からのファイナンスを受けている（アフリカ開発銀行、Enabel、AFD、アフリカ経済開発アラブ銀行、イスラム開発銀行、BIM銀行など）

ISO 9001:2015、14001:2015の認証を取得しており、自社の事業による環境への負荷を最小限に抑える姿勢を明確にしている。

進出国

アフリカ全土で事業展開しており、以下の7カ国に現地法人を有する：

- ブルンジ – Procobu
- コンゴ共和国 – PROCOB
- コートジボワール – IVOIREMOTOR
- モーリタニア – ABC Mauritanie
- 中央アフリカ共和国 – PROCOB RCA
- コンゴ民主共和国 – ABC SODIMEL
- ルワンダ – RWANDAMOTOR



主要指標（2019年）

売上：10,478,317 EUR

従業員数：17名



主要プロジェクト

伊ENI、Regideso（コンゴ水供給公社）、DGGT（コンゴ大規模プロジェクト総局）、SNEL（コンゴ電力公社）、SOMELEC（モーリタニア電力公社）、米GEなどをクライアントとして、以下のようなプロジェクトを数多く手掛ける：

- 村落454カ所への送電線の延長（コートジボワール：2019–2020）（6,301,510EUR）
- ルスモ滝水力発電ダムプロジェクト向け電気機械設備組立のための専門家人員派遣（ブルンジ、ルワンダ、タンザニア共同開発：2018-2021）
- リンワラーキンシャサ間12kmの送電線の設置（コンゴ民主共和国：2016）（2,499,215EUR）
- キファ太陽光・火力ハイブリッド発電所の設計・納入・設置（モーリタニア：2014-2018）（14,485,383EUR）
- キンシャサ近郊の変電所3カ所の増強工事およびキンシャサ無電化地域の電化（コンゴ民主共和国：2014-2017）（9,323,781EUR+4,828,404USD）
- ンタルカ水力発電所向け設備納入・設置（ルワンダ：2014-2015）（700,000EUR）
- 中圧・低圧送電線の建設・設置（ルワンダ：2009-2011）（3,345,000EUR）
- ブラザビル火力発電所のターンキープロジェクト（コンゴ共和国：2005-2007）（37,612,783EUR）
- 旧交通公社（ONATRA）向けディーゼル機関車5両のリハビリ（コンゴ民主共和国：2003-2007）（6,511,808EUR）

Contact

📍 Avenue Reine Elisabeth, 59 5300 Andenne, BELGIUM

🌐 www.abcontracting.be



企業概要

1909年に創業し、建設分野での地位を確立。欧州、中東、オーストラリア、アフリカに多くの子会社を有し、多分野に渡り事業を展開。特に以下の分野では特筆すべき地位を確立：

- 建設：建物、海洋工事、大規模インフラ、産業、環境、スポーツ、レジャー等施設
- コンセッション・資産：官民プロジェクトの取得、投資、運営、保守
- 不動産：一等地での住居物件、イノベーティブなオフィス物件の開発

BESIXは、自社のエンジニアリング部門で、地盤工学、コンクリート技術、方法論、プランニング、BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）、システムエンジニアリングなどのツールに関して専門性を蓄積することで、競合他社に対し優位性を保っている。

企業概要

- ナクティガル水力発電プロジェクト：ダム、水路、取水設備、水力発電所の土木工事の設計・施工（カメルーン：2018-2022）
- モハメッド6世タワー：アフリカで最も高い（225m）タワーの設計・施工。風や地震リスクに加え、ブーレグレグ川の増水も考慮に入れて建設（モロッコ：2018-2022）
- ラ・メ上水処理施設：西アフリカ最大の上水処理施設。造成、特殊基礎工事、土木、道路、各種ネットワーク工事。プロジェクト総額は45,000,000EUR。（コートジボワール：2018-2020）
- カイロ大エジプト博物館：ツタンカーメン王陵の出土品収蔵のための複合施設の建設（3.3万㎡）。プロジェクト総額は810,000,000EUR（エジプト：2012-2021）

進出国

- ブルンジ
- カメルーン
- コートジボワール
- エジプト
- モロッコ
- モザンビーク

主要指標（2019年）

売上：33.3億EUR
従業員数：13,000人以上

ビジネス機会・課題

中国企業との競争の激化。重要な案件は引き続き勝ち取っているものの、時折不公平と思われる競争に直面することも。

Contact

📍 Avenue des Communautés 100, 1200 Brussels BELGIUM

🌐 www.besix.com





企業概要

1902年創業。ベルギー国内に加えコンゴでも営業活動を展開。ライト社の航空事業の代理店活動も手掛けた。建機のディストリビューターのパイオニアとして、鉱山・採石場向けの粉碎・選別機材の供給で急速にリーダー企業としての地位を確立。

1世紀以上前から、Biaグループは公共工事、鉱山、採石場、輸送分野向けの機材の販売と関連サービスの提供を行っている。建機の販売、リース、アフターサービスが主要な事業だが、プロジェクト管理や、案件の進捗状況に応じた個別の顧客サポートで高い評価を得ている。KOMATSU、AUSA、KOHLER-SDMOなど、多くの建機のプレミアムブランドの総代理店となっている。

現在Biaグループは、欧州（ベルギー、オランダ、ルクセンブルク）の他、アフリカ20カ国以上で事業を行っている。2006年には、アフリカに注力するためアフリカ事業部門をBia OVERSEASとして分社化。アフリカ各国の遠隔地においても、機材供給からフルサービス契約まであらゆるサービスに対応している。

進出国

アフリカ全土（オフィスは以下の国に所在）

- ブルキナファソ
- カメルーン
- コンゴ共和国
- コートジボワール
- ギニア
- モーリシャス
- リベリア
- マダガスカル
- マリ
- モーリタニア
- ニジェール
- コンゴ民主共和国
- ルワンダ・ブルンジ
- セネガル
- トーゴ・ベナン
- ザンビア



主要指標（2019年）

売上：10,366,540EUR

従業員数：1,300人以上

（内850人以上がエンジニア・技術者）



主要プロジェクト

- Toguna Mining Corporation (マリ) : 2016年以降、マリオフィス (Bia Mali) を通じてTMCに機材供給を行い、併せて技術支援を行っている。
- モリラ鉱山 (マリ) : マリの鉱山オペレーターと2021年に資機材供与の第二期契約を締結
- リベリアの顧客向けKOMATSU PC850 19機の試運転 : 2020年12月。当該契約にはバケット・アタッチメント30個、ツールシステム (KMAX) も含まれており、組み立てはBIAが行った。
- ギニアのセメント製造・販売会社の設備増強 : 2020年9月。HIMOINSAの発電設備 (2000kVA) 2基の納入・設置。
- コートジボワール・アビジャン市内のゴミ収集車のメンテナンス・修理
- ブルキナファソの食品工場向けジェネレーター2基の納入 (2020年6月)
- ブルキナファソの国道221号線の補修・定期メンテナンス契約 : 2020年3月。総延長110km。工費は100億FCFA超 (約15,244,000EUR)。

ビジネス機会・課題

- 2021年、仏Euroforgroupと販売代理契約を締結。モーリタニア、マリ、セネガル、ギニアビサウ、ガンビア、ギニア、シエラレオネ、リベリア、コートジボワール、ブルキナファソ、トーゴ、ベナン、ニジェール、チャド、カメルーン、中央アフリカ、コンゴ民主共和国でEuroforgroupの取扱製品 (古河ロックドリル、RTDrill) を販売。
- 2020年、フィンランドの掘削工機メーカーであるRobit Groupと独占販売契約を締結。西部・中部アフリカ17カ国でRobitの代理店となった (セネガル、マリ、ブルキナファソ、コンゴ民主共和国、ザンビア、モーリタニア、ギニア、シエラレオネ、リベリア、コートジボワール、トーゴ、ベナン、ニジェール、チャド、カメルーン、中央アフリカ、コンゴ共和国)
- アフリカで安定したビジネスを行うためには技術トレーニングが鍵となる。2012年にダカールにKOMATSUの認定を受けたトレーニングセンターを開設。2018年にはブルキナファソのワガドゥグ、ザンビアのキトウェにもトレーニングセンターを開設。

Contact

 Rameistraat 123, 3090 Overijse BELGIUM

 www.biagroup.com



企業概要

1997年設立。世界有数の音声通信事業者、かつ世界最大のモバイルデータサービスのプロバイダー。アフリカのモバイルネットワークと世界200カ国の携帯電話オペレーター700社以上を接続。世界中に地域オフィスや現地オフィスを有する。LTEローミングの立ち上げや欧州・アジア間の初めてのVoLTE通話サービスの提供など、国際通信分野のパイオニアであり、以下のような各種のサービスを提供している：

音声通信、モバイルデータ、メッセージング、ローミング、ビジネスインテリジェンス（BI）、詐欺防止、IoT、通信容量関連ソリューション

主要プロジェクト

- プロキシマス（ベルギー通信最大手）がMTN、Swisscomが所有するBICSの株式を取得し、BICSの全株を取得（2021年）
- アフリカでのIoTサービス強化のため、南アのモバイルネットワーク関連サービスプロバイダーのFlickswitchと提携。BicsのSIM for Thingsを活用することで、FlickswitchのIoTサービスの顧客に対して世界各国でシームレスな接続環境を提供。
- 世界的な通信衛星オペレーターの仏Eutelsatとパートナーシップ契約を締結（2007年）し、アフリカでの音声・データ通信サービスを強化。この連携により、携帯電話オペレーターは、ネットワークの強化と通信ピーク時の帯域幅のコントロールが可能となった。また、地上通信網に障害が発生した場合でも、衛星通信により一貫した質の高い通信環境を提供。通信異常を検知しトラフィックを最適化するシステムの提供など、通信の継続性に重点を置いたサービスを提供することで競合他社との差別化を図る。

進出国

アフリカ全土（オフィスは以下の国に所在）

南アフリカ

ケニア

トーゴ

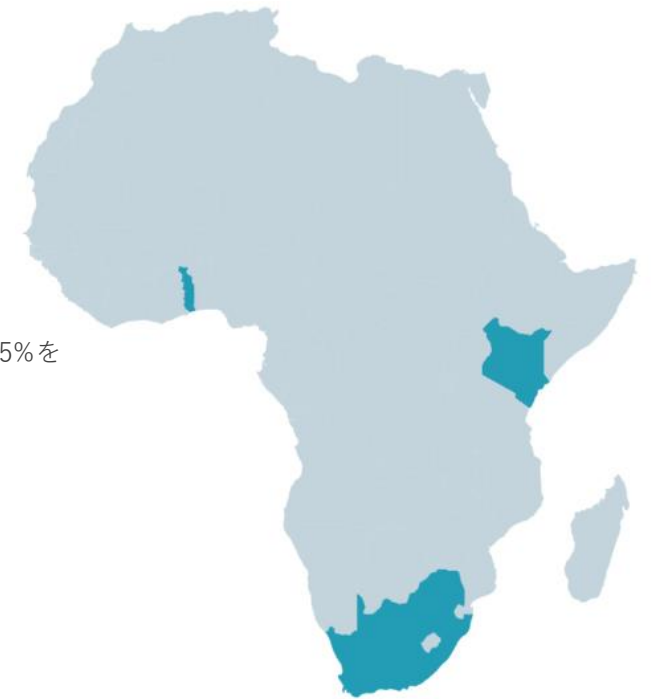
主要指標（2019年）

売上：13億EUR

※ アフリカ地域は売上の25%

※ 全従業員の3分の1、販売部門の20～25%を投入。

EBITDA（2020年）：1.31億EUR





ビジネス機会と課題

- 100GB/秒のキャパシティを持つOTNレイヤーの光ネットワークを持ち、欧州域内の主要なデータセンターやインターネットエクスチェンジをカバー。
- アフリカ市場は競争が激しくなく、マーケットリーダーの地位を確立している。
- アフリカや国際的に信頼されているパートナーと連携することが新規市場進出の鍵。最終顧客とは直接取引を行わず、BICSのサービスを活用している現地オペレーターとのみ取引を行う。
- アフリカのオペレーターは、デジタル戦略に高い関心を示すようになっており、それをターゲットに取り組んでいく。
- 一部の国とは租税条約が締結されておらず、二重課税のリスクがある。他方で、フランスは政府が多くのアフリカ諸国と租税協定を締結しており、通信分野でもフランス企業との競争では不利な状況に置かれている。
- 支払い遅延は日常茶飯事。
- 行政手続きが遅く、各種手続きに数カ月を要することもある。
- 2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で売り上げが減少。ローミングは収益性の高い事業だったが、旅行や出張の減少により大きく影響を受けた。

Contact

📍 Rue Lebeau 4, 1000 Bruxelles, BELGIUM

🌐 www.bics.com



企業概要

Colruytグループの輸出部門（Colruyt Export）として1985年に設立。Colruytグループ自体は、1928年に創業。植民地との小規模な貿易から事業を始め、流通分野のマルチナショナル企業に成長。COLEXは現在、4,500点以上のベルギー製品を世界各国の小売り・卸売り業者に輸出。輸出・輸入書類の作成、仕向港までの輸送手配、コンテナ（特に混載）のコントロールなど、一連の輸出関連サービスを提供している。

主要プロジェクト

- 2018年12月：ベナンのバイヤーBesanaとベナン産カシューナッツの購入・販売で合意。ベルギーの開発援助機関であるEnabelのプロジェクトの一環。
- アフリカ各国のスーパーマーケットでのColruyt製品の販売。特にコンゴ民主共和国のHasson & Frèreで販売を行う。
- 開発支援団体のRikoltoと共同で、コンゴ民主共和国の北キヴ州のコーヒー産業に対してプレファイナンスを実施（2020年4月）。約2,200の零細農家を支援することで、高品質なコーヒーを調達。

進出国

西部・中部アフリカ中心
ブルンジ
コンゴ民主共和国
ルワンダ
セネガル

主要指標

Colruytグループ全体：

2019/20年

売上：95億EUR（EBITDA：売上の8.2%）

※ 約8割が小売り、1割が卸売・ケータリング、
残りは再生可能エネルギー等の事業

投資額：4.1億EUR

店舗数（スーパーマーケット）：601店舗

従業員数（フルタイム）：30,631人

COLEX：

売上：Colruytグループの20～30%

顧客数：約200社（2019年）

従業員数：40名





ビジネス機会と課題

- 2年前からアジアマーケット（日本、シンガポール、香港）に進出。
- Colruytグループでは、西アフリカで持続可能なカカオの生産チェーンを確立し、地元の農家から適正価格でカカオを調達することに取り組んでいる。
- 模倣品が課題。自社のPB製品（BONI、Everyday）を模倣した商品が中国、UAEから輸入されて販売されている。
- DRCでは、1つの国際取引について銀行が3重でチェックをするため、決済のペースが遅れ、取引の遅延に繋がる。
- アフリカ市場は収益性が高く、各国企業が関心を高めている。特にインド企業との価格競争が激しく、価格引き下げ圧力が強まっている。
- 2019年はDRC、ルワンダ、ブルンジ、セネガルで売り上げ増。
- アフリカの主な顧客は現地の小売・卸売業者で、いずれも成長著しく、広域のマーケットにネットワークを有しており、PB商品をフルラインで仕入れる傾向にある。
- 現地では信頼のおける下請業者と取引。Colexは現地法人を持たず、現地の取引先を通じてベルギーからオペレーションを行っている。

Contact

 Edingensesteenweg 196, 1500 Halle, BELGIUM

 www.colex-export.com



企業概要

浚渫工事から事業を始め、徐々に事業を多角化。現在は、以下のような高度に専門的な分野で各種のサービスを提供している：

浚渫、埋め立て、オフショア・エネルギー関連事業（石油、ガス、再生可能エネルギー）、海洋インフラ、環境関連（土壌浄化、水処理等）

140年以上の経験に裏打ちされた専門性を活用し、革新的で新しい技術を活用したテーラーメイドのソリューションを顧客に提供、プロジェクトを効率的かつ着実に実施し、顧客の収益性の確保に貢献。世界各国で事業を展開し、100隻以上の多目的船と多数の補助設備を所有。環境保護関連の事業にも注力しており、海洋汚染や海面上昇対策の新技术開発も行っている。

主要指標

2019年

売上：26.2億EUR（内アフリカ事業の売り上げは10%）

【内訳】 オフショア関連：44%、浚渫：41%、インフラ：7%、環境：6%、その他：2%

EBITDA：4.37億EUR

2020年

売上：21.96億EUR

【内訳】 オフショア関連：7.17億EUR、浚渫：6.77億EUR

従業員数：4,917名

受注済金額：45億EUR

進出国

- アルジェリア
- アンゴラ
- ベナン
- カメルーン
- コンゴ共和国
- コートジボワール
- ガボン
- ガーナ
- ギニア
- モザンビーク
- ナイジェリア
- コンゴ民主共和国
- ザンビア





主要プロジェクト

- 湿地帯の土壌引き上げ（2019–20年、ナイジェリア）：南東部のボニー（Bonny）–ボド（Bodo）間の道路新設に伴う湿地帯の土壌引き上げ工事
- パイプラインのトレンチング（2018–19年、アルジェリア）：モスタガネム港付近の新設発電所向けパイプラインのトレンチング・埋め戻し
- 護岸工事（2017–20年、ベナン）：養浜工事および沖合の堤防建設工事
- 高架橋建設のための浚渫工事（2016–18年、レユニオン）：48カ所のピット設置のための浚渫工事およびピット内への砂利敷き・レベリング作業。
- タンジェ港拡張（2012–13年、モロッコ）：浄化工事、進入路、本船回頭水域、バース設置のための浚渫工事、70万m³のプラットフォームの埋め立て
- Eko Atlantic（2009–19年、ナイジェリア）：エコ・アトランティックシティ建設のため、1億m³相当の資材を使い9km²の埋め立て・造成

Contact

 Haven 1025, Schelvedijk 30, 2070 Zwijndrecht, BELGIUM

 www.deme-group.com

DENYS

DENYS

エネルギー・環境

インフラ

輸送

企業概要

1923年創業。当初は水道管敷設を専門に事業を行っていたが、徐々に事業を多角化し、以下のような様々な分野で事業を手掛ける総合建設企業に成長：

水、エネルギー、モビリティ、建設、リハビリ、特殊建築

欧州、北・サブサハラアフリカ、中東で事業を展開しており、アジア、中南米、カナダなどへの進出にも積極的。PPPで多くの実績を有する。

主要プロジェクト

- カメルーン：ピパガンポロングウェ間のガスパイプラインの建設（クリビ火力発電所へのガス供給用：EPCI契約）
- コートジボワール：アビジャン自治港の埠頭3か所の浚渫工事
- ガーナ：水道管、給水所、貯水槽の設計・施工、水処理施設のリノベーション・拡張（クワンヤク、エサキール、カソア、タフォ、コフォリドゥア）
- マリ：バマコの新ニジェール川右岸の水道管延長に係る技術調査、管理・監督
- ザンビア：ルサカの主要給水網および基礎構造の改修

ビジネス機会と課題

- 建設プロジェクトを円滑に進めるため、常に現地オフィスを開設。プロジェクト監督には経験豊かな海外人材を活用するが、作業スタッフは現地人を採用。
- 建設分野では中国、インド企業との競争が年々激化。入札案件の応札価格が下がってきているという点、またドナーが品質に重きを置いていないということが課題。
- 上記のような競争に打ち勝てるような企業間連携を歓迎。

進出国

アルジェリア
カメルーン
コートジボワール
エチオピア
ガーナ
リベリア
マリ
モロッコ
モザンビーク
ニジェール
コンゴ民主共和国
チャド
ザンビア

主要指標（2019年）

売上：3.05億EUR（内15～20%がアフリカ事業）
スタッフ数：1800人（内717人は直接雇用）
現場ではベルギー人は2%程度で、98%は現地人材

Contact

📍 Industrierweg 124, 9032 Wondelgem, BELGIUM

🌐 www.denys.com





企業概要

1987年創業。マルチモーダル輸送の世界的企業で、160カ国以上に300以上の代理店を有する。モノの流れの起点から終点までシームレスなサービスを提供し、輸送に関するあらゆる調整を行う。LCLコンテナ輸送に特にノウハウを有しており、手配可能なダイレクトの輸送ルートは2,400を超え、輸送所要日数を短縮し、安全性の高い輸送サービスを提供している。主要なハブ都市に進出しており、また、主要な輸送事業者との連携体制を構築している。FCLコンテナ輸送、航空貨物輸送も手掛ける。

ビジネス機会と課題

- 自社のネットワークを広げるための新規パートナーの開拓に積極的。
- 自社オフィスは限られた国にのみ開設し、他は信頼できる現地パートナーを活用。

進出国

アフリカ全土でサービスを提供。
ハブとなる以下の8カ所に進出。
その他各国にはパートナー有。

南アフリカ
アルジェリア
コートジボワール
エジプト
ガーナ
ケニア
モロッコ
タンザニア



主要指標 (2019年)

売上：6,389万EUR (内アフリカの売り上げは約30%)
※売上のメインは米中間の輸送

Contact

📍 Schomhoveeweg 15, 2030 Antwerpen, BELGIUM

🌐 www.ecuworldwide.com

企業概要

1849年創業。木工業からビジネスを始め、6世代を経て浚渫や以下の事業分野で世界的な企業に成長：

オフショア発電、水路メンテナンス、港湾建設、造成、複合インフラ建設、除染・水質浄化

浚渫工事や海洋工事用の最新鋭の特殊船の他、500機を超える陸上作業用の重機、汚泥・堆積物汚染用の処理・再利用施設を有する。

ドバイのパームアイランドII（人工島）建設、パナマ運河の拡張、新スエズ運河の掘削工事などを手掛ける。

ビジネス機会と課題

- 現地企業との連携は難しく、連携維持も困難を伴うとの判断から、90%のプロジェクトは単独で実施。残り10%は例外的にパートナーシップを結び実施している。特に共同プロジェクトについては、実施のための十分なファイナンスを見つけることが難しい。
- 中国企業との競争が激化。

主要指標（2019年）

売上：約20億EUR（EBITDA：3.42億EUR）

※アフリカでの海洋工事、浚渫工事はグループ全体のビジネスの約7%

自己資本：29億EUR

受注残金額：340億EUR

従業員数：6,875人

進出国

南アフリカ
ベナン
ボツワナ
カメルーン
コートジボワール
エジプト
エスワティニ
ガーナ
リベリア
モロッコ
モーリタニア
モザンビーク
ナイジェリア
セネガル
シエラレオネ
チュニジア
ジンバブエ



Jan De Nul



主要プロジェクト

- 南アフリカ：ヌーハ（Ngqura）港の浚渫工事、防波堤・岸壁の建設
- ベナン：沖合の防波堤建設と資材供給（ノルウェーから砂を調達）
- コートジボワール：アビジャンの港湾エリアの拡張、浸食リスクのある土地の埋め立てと保護工事
- ガーナ：タコラディ港の拡張に伴う浚渫工事、岸壁建設・防波堤延長のファイナンス、設計・建設
- モザンビーク：マプト港への進入航路の補修、深水化工事
- セネガル：ダカール港の内港および進入航路の浚渫と12haの造成
- チュニジア：スファックス港湾地区の浄化作業の一環として、環境対策のための浚渫工事、堆積物処理、埋め立て工事等を実施。堤防とビーチを新設し、海岸エリアを都市の一部として再開発。EIBからのファイナンスを得て実施。
- プラスチックによる環境汚染対策のため、2019年にガーナとベナンで清掃活動を実施：地域住民と協力し、ガーナでは440kg、ベナンでは4.5トンのプラスチックゴミを回収。

Contact

📍 Trangel 60, 9308 Hofstade-Aalst, BELGIUM

🌐 www.jandenul.com

エネルギー・環境

インフラ

鉱業

輸送

企業概要

1817年設立。創業当時の社名はCockerill Maintenance & Ingénierie (CMI)で、蒸気機関や織機などの設備や大砲などの軍需品の企画・製造を行っていた。現在は、John Cockerillに社名を変更し、以下のようなエンジニアリングの各分野で国際的に事業を展開している。

- エネルギー：排熱回収ボイラー、太陽熱ボイラー
- 鉄鋼業：炭素鋼の冷間圧延鋼板用のコンプレックス
- 軍需産業：砲塔システム、シミュレーター
- 環境：産業廃棄物処理施設の設置、効率的なエネルギーソリューション

天然資源の保護やグリーンモビリティ、持続可能な再生可能エネルギーの生産・アクセスなどの課題に対応するための技術開発に取り組んでいる。多くの子会社を有し、アフリカで事業を行うCMI Serviceも同じグループ企業。

主要指標（2019年）

売上：12.6億EUR（EBITDA：8,120万EUR）

従業員数（2019年12月31日時点）

5大陸に6,315人

（内5,741人がJohn Cockerillとの直接雇用契約、ベルギー国内の従業員数は1,011人）

進出国

南アフリカ
コートジボワール
エジプト
ガーナ
ケニア
モロッコ
ナイジェリア
コンゴ民主共和国
コンゴ共和国
チュニジア

[子会社]

- CMI Congo（コンゴ共和国）
- Cockerill Maintenance & Ingénierie Maroc（モロッコ）
- Praytech Maroc（モロッコ）



John Cockerill



主要プロジェクト

- 50カ国に650機を超える産業用ボイラーを設置：合計容量は140GW
- 南アフリカ：キ太陽熱発電所（Khi Solar One）向けのオーダーメイドの太陽熱レシーバーの設計・開発・納品
- コートジボワール：鉄道会社（Sitarail）の入替機関車2両のリハビリ（CMI Service）
- ケニア：集水・揚水・水処理・水質浄化を専門に行うグループ会社のCMI Balteauが、50カ所の井戸の掘削、貯水槽の建設、地域住民用の給水施設、家畜用の給水所の建設を1,200万EURで受注。ファイナンスはベルギー当局とFinexpo（ベルギーの輸出金融機関）の協調融資。期間は3年間で1年間のメンテナンス契約を含むもの。CMI Balteaは、ヴィヒガカウンティなどでの給水施設のリハビリ・拡張など、他に3つのプロジェクトをケニアで受注しており、受注総額は1億EUR。

ビジネス機会と課題

- サブサハラアフリカはポテンシャルが高いマーケット。ガーナでは新型のボイラーを供給予定。
- スタートアップ企業支援も実施。一例ではワロン地域およびアフリカで事業を行うスタートアップのO-Hubを支援し、一次資源へのアクセスを改善。

Contact

📍 Rue Jean Potier 1, 4100 Seraing, BELGIUM

🌐 www.johncockerill.com

エネルギー・環境

インフラ

化学

トレーニング・コンサル

輸送

企業概要

医師と建築士により設立。医療インフラ（熱傷センター、中毒・毒物処置センター、スポーツクリニックなど）の設計・建設に係るコンサルテーションを提供。医療施設や社会福祉施設の計画、設置、設備・資金調達に関して、シームレスなコンサルティングを提供しクライアントをサポート。

また、医療施設を持続的に運営できるよう、医療スタッフ、事務スタッフの研修プログラムの提案も行う。

主要プロジェクト

- カメルーン：クリビの多機能医療コンプレックス（内科・外科病棟（約100床）、ホテル、講堂、カンファレンスルーム、母子病棟）の建設
- セネガル：ダカール熱傷センター：重度熱傷患者の治療のための専門施設。特殊な病例・多様な治療ニーズに対応する医療施設として建設。
- セネガル：ダカール中毒・毒物処置センター：依存症と毒性学の専門施設の建設。依存症や中毒症状などに苦しむ患者の治療のための施設で、様々な治療方法に適したスペースを有し、医学的なアプローチの他、心理学的なアプローチでの治療にも対応
- セネガル：リュフィスク簡易医療センター：医療基準を満たさず、良質な医療サービスが提供できなくなった施設のリハビリ・改修
- ギニア：大学病院の役割も兼ねた地域医療センター
- ガボン：Karl Sortzなど医療機器の代理店、COVID19対応のための緊急物資供給

進出国

カメルーン
ガボン
セネガル
ギニア

主要指標（2019年）

売上：100万EUR
（売上の75%はアフリカ事業）


建築士、技術者、物流担当者など、
各分野に精通した多様な人材を雇用



主要プロジェクト

- イベント運営大手のGL Eventsと提携し、コロナウイルス感染症に際して、現地の保健システム強化のため、一時的な医療インフラを提案：選別、入院（ICU含）、機能補完（病院機能を補完するもの：ラボ、放射線室、遺体安置場など）など機能別にエリアを分け夫々が独立して稼働、エネルギーや水も自律的に供給可能なものとする計画。
- 医療分野の特殊性を考慮すると、海外で事業を展開するためには現地パートナーが必要不可欠。
- アフリカでは、医療・公共保健分野で信頼できるパートナーを見つけることは困難。公共プロジェクトでは、省庁の手続きが複雑で、専門的な知見を有した現地パートナーが必要。加えて汚職の問題も有。
- 病院建設に関しては、ニーズは高いものの、アジア企業や欧州の大企業との競争は激しい。一方、QGMは、品質や専門性に加え、小規模インフラにも対応する柔軟性、ターンキーによるオペレーションの容易さ、将来を見据えたプロジェクト提案などにより、競合他社に対し優位性を保っている。

Contact

 Rue Caremberg 66, 7850 Petit-Enghien, BELGIUM

 www.qgm-ms.com



企業概要

1981年創業のファミリー企業。輸送分野を専門とし、特に世界各国への海上輸送、アフリカでのロジスティクス、通関、リーファー（冷蔵・冷凍）海上輸送などに強みを有する。世界各国に信頼できるパートナーと連携することで、クライアントに最適かつ採算性の高い輸送ルートを提供。グループ会社のCustomsは、国際輸送の通関などのあらゆる行政手続きに対応。次のような様々な製品の輸送で定評を得ている：醸造機器、繊維、飲料・食品、冷蔵食品、自動車等車両全般、化学・農薬、油脂、紙、産業用繊維、金属・プラスチック、人道物資など

主なグループ会社は以下のとおり：Remant Africa Logistics、Remant Globe Logistics、Remant Customs、Remant Cool Logistics、Lancaster Logistics、Foodcareplus

Remant Africa Logisticsは、専門性の高い4つの事業部門によりアフリカ全土でサービスを提供している：

- 醸造部門：ビール、ワイン、その他飲料の生産・販売に必要な製品を現地メーカー、小売・卸売業者向けに輸送
- 自動車部門：タイヤから移動式クレーン、建設機械まで様々な製品の輸送・物流サービスを提供
- 貨物部門：食品、化学品、人道物資などあらゆる貨物の輸送・物流サービスを提供
- 物流・エンジニアリング部門：アクセスが困難な場所、ほとんどアクセスができないような遠隔地への特殊・複合輸送サービスの提供

持続可能な輸送手段を用いることで、エコロジカル・フットプリント（人間の活動が環境に与える負荷）を可能な限り抑制し、競合他社との差別化を図っている。

進出国

アフリカ全土

主要指標（2019年）

売上：45,114,647EUR

※Remant Africa Logistics単体
ベルギー国内の従業員数：19人

主要プロジェクト

- 世界の輸送事業者のネットワーク組織であるWCAの生鮮食料品輸送の専門企業130社からベストパートナー賞を受賞：World Speciality Logistics Fairで3年連続（2017～2019年）
- 2021年、ブレイクバルク貨物輸送の企業ネットワーク Atlas Breakbulk Allianceに加盟。プロジェクト・ロジスティクスや特殊輸送分野の企業ネットワーク Project Logistics Allianceにも加盟。

Contact

📍 Industrieweg 124, 9032 Wondelgem, BELGIUM

🌐 www.denys.com





企業概要

1991年創業。SIAT (Société d'Investissement pour l'Agriculture Tropicale : 熱帯農業投資会社) は、アブラヤシ (パーム) と天然ゴムのプランテーションの開発・運営、加工および関連下流産業に特化したアグロインダストリー企業。現在、グループ全体で46,100haのパームプランテーション、24,000haの天然ゴムプランテーション、6,000頭の家畜牧場を所有している。

環境配慮型のアプローチを取っており、製油所から出る廃棄物はプランテーションでリサイクルするか、蒸気や発電のための燃料として使用されている。

SIATは、現地コミュニティの教育や道路・給水・発電などのインフラ整備を通じて、地域の安定性やコミットメントを高めることで、投資の安定性を確保している。

ビジネス機会と課題

- カカオ事業は行っていないものの、生産性・耐久性を向上させ、環境負荷を低減させるための品種改良に関して、バイオ分野のR&Dで協力。
- 土地活用のグッドプラクティスに関して、現地政府に経験を共有。

進出国

ナイジェリア
ガーナ
ガボン
コートジボワール

主要指標 (2019年)

売上：1.34億EUR
従業員数：17,954人 (内30%が女性)
従業員とその家族向けの住宅：4,315棟





主要プロジェクト

ナイジェリア

- Presco Plc：ラゴス証券取引所上場企業。23,500haのパームプランテーション、カーネルの破碎、搾油、製油施設を所有しており、SIATは株式の60%を所有。天然ゴムのプランテーション経営も開始し、現在250haを所有。
- SIAT Nigeria Ltd (SNL)：SIATの子会社で、16,000haのパームプランテーションのコンセッションに加え、産業コンプレックスの社会・産業インフラを取得。

ガーナ

- GOPDC：SIATの子会社で、1.4万haのコンセッションの内、8,000haでパームを栽培。また、7,000人の農家に対して技術・金銭的支援を行うことで、合計1.37万haの栽培を確保。日量100トン規模の精製・分留施設と倉庫をクワエ、テマに所有。パーム栽培に適していない土地を活用し、天然ゴムの栽培を開始。2018年末時点で750haを栽培。

ガボン

- SIAT Gabon：1.2万haの天然ゴムプラテーション、6,000頭以上の牛を10万haで牧畜

コートジボワール

- Compagnie Hévécicole de Cavally (CHC)：7,700haのコンセッションで5,500haの天然ゴムプランテーションを管理。1,200の小規模農家との共同プログラムも実施、栽培規模は天然ゴム1.35万ha。プランテーションの敷地内に、5万トンのゴム顆粒が製造可能な加工施設を設置。
- Compagnie Hévécicole de Prikro (CHP)：プリクロのコンセッション。現在2,000haで天然ゴムを栽培。将来的には4,500haのプランテーションとする計画。

- 2019年、GOPDCはバイオメタン化、CHCはコジェネレーションでそれぞれ「Energy Globe Award」を受賞。エネルギー効率、再生可能エネルギー、資源保全などのプロジェクトに対して毎年贈られる賞。
- 2018年、世界バイオガス協会と英国嫌気性消化・生物資源協会（ADBA）から共同で「国際農業プランテーション有数賞」が授与される。ガーナとナイジェリアのバイオガスプラントで、製油施設の排水に含まれる有機物残渣のメタンを嫌気性発酵によって回収する取り組みが評価されてのもの。

認証

- ISO 9001：Presco（ナイジェリア）、CHC（コートジボワール）
- RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）認証、FSSC（食品安全システム認証）：GODPC（ガーナ）
- ISO 14001：Mitzic（ガーナ）
- RSPO認証：SNL（ナイジェリア）同認証の取得はナイジェリアで初めて

Contact

 Romboutsstraat 6-8, 1932 Sint-Stevens-Woluwe, BELGIUM

 www.siat-group.com



企業概要

1909年創業。世界的なアグロインダストリー企業。Socfinは持株会社で、パームオイル、ゴムを生産する子会社の事業の管理を行っている。

自社の事業内容のニーズに対応するため、Socfinグループは、特定の専門分野を持つ様々な事業会社で構成されている。例えば、ベルギー国内の子会社SOCFINCOは、技術的、農学的、資金的支援やコンサルティングサービスを行っている。

ビジネス機会と課題

- タイヤメーカーは、世界各国の工場生産停止や減産を急速に進めており、ゴム価格に直接的なインパクトを与えている。
- 中国の成長鈍化、インドのロックダウンといったパームオイルの主要輸入国の状況と原油価格の下落によって、パーム原油の価格が下落。
- ビジネスが自然環境と密接に関係しているため、生態系のバランスや生物多様性を維持するための取り組みを進めている：ISO14001やRSPOなどの認証取得、Socfin Green EnergyやSocfin Researchといった子会社への投資など。
- 農業用熱帯地方産の原材料の販売を専門とする子会社Sogescol FRを通じて、西部アフリカおよび東南アジアから世界各国に原料を輸出・販売。
- 持続可能な開発のためPPP（官民連携）プロジェクトに参加。

進出国

カメルーン
ガーナ
ギニア
リベリア
ナイジェリア
コンゴ民主共和国
サントメプリンシペ
シエラレオネ

主要指標（2018年）

売上：5.45億EUR

- ・パームオイル：3.06億EUR
- ・天然ゴム：1.67億EUR
- ・その他農産品：1,000万EUR
- ・その他事業：6,400万EUR

コンセッション面積：40万ha

- ・パームオイルプランテーション：13万ha
- ・天然ゴム：6.4万ha

地域別売上

- ・アフリカ：3.60億EUR
- ・アジア：1.25億EUR
- ・欧州：6,000万EUR





主要プロジェクト

- シエラレオネ：2009年、農業省の要請により現地法人（SAC）を設立。苗床の設置、1.25万haのアブラヤシの段階的な植え替えに加え、2015年には製油施設を設置。湿原と生物多様性の保全のため、所有面積の60%のみ開発。直接・間接雇用は3,287人。
- コンゴ民主共和国：ユニリーバが90年代に放棄したブラバンタ・プランテーションを買収（2007年）。6,200haのアブラヤシを改良品種に植え替え。Socfinのイニシアティブにより、プランテーションが再開、DRCのパーム油の工業生産の大幅な増強に繋がった。直接・間接雇用は3,280人。加工施設1カ所。
- ナイジェリア：ナイジェリア第2のプランテーションOkomuの株式の過半数を取得（1998年）。Okomuは、パーム油の生産では国内首位、天然ゴムは第2位。直接・間接雇用は4,752人。加工施設3カ所。プランテーション面積は2.64万ha。
- カメルーン：現地法人Socapalmを設立しプランテーション経営を開始（1968年）。Socapalmは現在、国内のパーム油の51%を生産。2000年以降の投資額は1000%の伸び。IECDと連携し、多くの若手起業家をプランテーション事業に参画させるとともに、生産プロセス全体でも協力。ドゥアラ証券取引所に上場する3社のうちの1社。直接・間接雇用は5,197人。加工施設6カ所。プランテーション面積は3.47万ha。

Contact

📍 Place du Champ de Mars 2, 1050 Bruxelles, BELGIUM

🌐 www.socfin.com

企業概要

2009年にアフリカ専門の農業エンジニアにより設立。水処理、飲料水の供給から、揚水、貯水、データ処理に至るまで画期的なソリューションを提案。

WHOで定められる細菌についての水質基準を満たす処理施設の開発・製造・流通・設置を手掛けるとともに、住民や産業ニーズに即した水処理、貯水のターンキーソリューションを提供している。

新興国が抱える困難かつ複雑な条件に適応するため、運営・メンテナンスが容易で、耐久性があり、エネルギーや消耗品の消費を抑える技術を提供。

アフリカ、南アメリカ、ハイチで積極的に事業を展開している。

ビジネス機会と課題

- 建設やエンジニアリング、特にロジスティクスを効率的に行うため、プロジェクト実施に当たっては必ず現地パートナーと連携。
- 水処理施設のプロジェクトは、現地政府の合意を得る必要があるため、決定に時間がかかることがある。
- 一部の国の政情不安や政府の不安定さにより事態が複雑化することがある。そのため、同じプロジェクトであっても、政府の変更により調整相手が変わることがある。
- プロジェクト契約のためには多くの行政手続き、署名、許可が必要なため、プロジェクトの遅延に繋がる。
- 調達資金の払い込みは時間がかかり、時折不可能な状況に陥ることもある。売上・工事代金の支払い期限は概して長い。

進出国

南アフリカ
ブルキナファソ
コモロ
コートジボワール
ガボン
ガーナ
ギニア
マリ
モロッコ
コンゴ民主共和国
セネガル
シエラレオネ
トーゴ

主要指標 (2018年)

売上：非公開
(売上の80%がアフリカ事業)
従業員数：アフリカ3名、ベルギー7名





主要プロジェクト

- ブルキナファソ：ヒ素処理・残留塩素の投入調節装置を備えた給水ステーション及びブースターポンプ（何れも太陽光を活用したもの）の製造・設置。人口2000人の村への給水プロジェクト。
- コートジボワール（2017～18年）：飲料水・農業用水の処理、貯水、給水のためのソーラーステーションの供給・設置、および150の村落への照明の供給
- コートジボワール（2019年）：イラ（Irah）村（人口8000人）向けの飲料水の処理・貯水・給水のためのソーラーポンプステーションの設置。ONEP（コートジボワール給水公社）と連携、ベルギー政府からのファイナンスを得て実施。
- ギニア：187室のホテルへの給水のための水処理施設の設置
- マリ：パスタ・セモリナ粉の工場向けの原水の汲み上げ、処理、貯水を組み合わせた水処理施設の設置、管理およびトレーニングの提供。
- セネガル（2013～14年）：鉱山エリアの都市向けの水処理・貯水施設設置のターンキープロジェクト。原水の一時貯水施設、サイクロン式プレフィルター、濾過精度25ミクロンおよび0.01ミクロンのフィルター、活性炭フィルター、塩素注入、処理水貯水施設を組み合わせたもの。

Contact

📍 Chaussée de Louvain 435, 1380 Lasne, BELGIUM

🌐 www.sotradwater.be

TEXAF



デジタル・エコノミー

インフラ

鉱業

企業概要

1925年創業。コンゴ民主共和国で最も従業員を雇用している企業の一つ。創業当初は綿花産業に特化していたが、次第に事業の多角化を図り、不動産、鉱山開発、デジタル関連事業に進出。ユーロネクストに上場しながら、DRCのみで事業を展開している唯一の企業。

DRCでの長年の経験により、現地企業と連携するとともに、多くの新規プロジェクトに投資を行い、DRCの経済においても重要な役割を担っている。全てのプロジェクトでグッド・ガバナンスを実践しており、国連グローバル・コンパクト10原則の順守に努めている。

ビジネス機会と課題

- Partech Africaに出資。デジタル関連事業を収益の柱の一つとするため、デジタル技術分野の知見を早急に獲得することが狙い。
- 新型コロナウイルス危機では、パンデミック下でのデジタルコミュニケーションの支援のため、政府に協力。
- DRC国内でのデジタル分野でのプレゼンス強化のため、デジタル事業専任のディレクターを新規に採用、新規のパートナーシップ締結に向けた戦略の立案を目指す。
- DRC国内の厳しい環境に直面することもあり、特に資産の保全は課題。現地の関係者による横領・詐欺などの問題も有。他方で、1925年から蓄積してきた知見により、対策は進化、あらゆる事態を想定することができるようになった。

進出国

コンゴ民主共和国

主要指標（2019年）

売上：2,169万EUR

EBITDA：1,121万EUR





主要プロジェクト

- Texaf Digital：アフリカ、特にDRCのデジタル経済の発展を受けて2018年に開始。第四次産業革命をもたらす可能性と機会に確信を得て、デジタルハブの建設に着手、2020年1月から稼働しキンシャサのテックエコシステムの重要な拠点になっている。
- 2020年1月、キンシャサ・デジタル・アカデミーの立ち上げに尽力。同アカデミーでは、中部アフリカでデジタル関係の職業につくための第一歩となるコーディングが学べる7か月のプログラムを提供している。このプロジェクトはFacebook、GIZ、Orange、EUなどの協力を得て実現。
- 2021年1月、Texaf Digital Campusはベルギーのインキュベーター／アクセラレーターのOvationと共同でK-impactというインキュベーション・プログラムを開始。
- UEXAFRICA：Texafの子会社で、キンシャサの中心部に60ha（内44haは建設可能な土地）を所有。国際基準の住居やオフィスを開発し賃貸に出している。現在、倉庫や商業施設の他、287戸の住居、21,000㎡のオフィススペースを賃貸に出している。現在建設中のプロジェクト：「Petit pont」：3,000㎡のオフィスビル、「Bois nobles」：33棟のマンションを建設。敷地内にはレストラン、プール、フィットネスジムなどの複合施設が建設され、35カ国から1,000人以上の住人を迎える予定。
- CARRIGRES：キンシャサの主要採石場。専門性の高い有能な人員と、高品質かつ大量生産に適した設備を備える。コンクリート生産やキンシャサ市内の道路建設向けに供給を行う。

- Texaf BILEMBO：文化・教育センター。DRCのアイデンティティ、環境、ノウハウやライフスキルをテーマに、常設展、企画展の他、アトリエ、セミナー、トレーニング、課外ワークショップ、カフェ・ライブラリーなどを開催。
- キンスカガーデン（Jardins de Kinsuka）：コンゴ川沿いの87haの土地に1,500戸の住宅と必要なインフラ（道路、水道、学校、商業施設、クリニック、スポーツ・レジャー施設など）を含む新エリアを開発するプロジェクト。緑地、環境配慮型の建物、省エネなど、環境に配慮しつつ、高品質で耐久性の高い建築物に焦点を当てたプロジェクトとなっている。

Contact

📍 Avenue Louise 130a, Boîte 6, B-1050, Bruxelles, BELGIUM

🌐 <https://www.texaf.be/en>

企業概要

鉄道、エネルギーなどの企業4社の合併により設立され、エネルギーインフラの分野で世界的に事業を展開。エンジニアリングのコンサルティングサービスを提供し、エネルギー、水、インフラ分野では世界的な企業の一つ。欧州、アフリカ、アジア、ラテンアメリカ、中東で幅広く事業を実施。

様々な専門企業の買収により、事業ポートフォリオを広げるとともに、以下のような分野を中心に高度な専門性を獲得：

洋上風力発電、太陽光エネルギー、省エネ住宅、環境エンジニアリング、給水・排水処理、自然水（降水量、地下水、河川・河口、沿岸地帯、港湾、海洋）分野のエンジニアリング、水力発電・水資源、持続可能な開発についてのコンサルティング

アフリカには1950年代初めに進出。Coyne et Bellier、GKW Consultといった子会社とともに、水力発電、風力発電、太陽光発電、原子力発電所、火力発電所、ガスインフラなどのプロジェクトをアフリカ全土で調査・実施している。

進出国

南アフリカ
アルジェリア
ブルキナファソ
カーボベルデ
エチオピア
モロッコ
ニジェール
ウガンダ
セネガル
タンザニア
チュニジア

主要指標（2019年）

売上：5.81億EUR
70年で600のプロジェクト実績
専門家：200名
従業員数：5,000名



主要プロジェクト

- 2021年3月1日：スペインのエネルギー大手Abengoaが運営する南アフリカの太陽光発電所（100MW）の株式の40%と、メンテナンス会社の株式の46%を取得。パラボラ・トラフ型の集光・集熱設備と溶融塩蓄熱システムによって5.5時間の蓄電ができ、ピーク時でも信頼性の高い電力供給を可能にしている。
- アフリカ全土で3.15GWの発電容量を所持（運転中、建設中合わせて）。南アフリカでは第一の独立系発電事業者。

アフリカでの主なプロジェクト


- 南アフリカ：Koeberg原子力発電所（2015～20年）：2基の蒸気発生器交換を、国際的な運転・安全基準に則したものに交換するのに伴い技術サポートを提供。
- カーボベルデ：パルマレージョ（Palmarejo）発電所（ディーゼル）拡張工事（2009～12年）：4ストロークの中速ディーゼル発電機2基の増設
- エチオピア：グランド・ルネッサンス・ダム（2010～18年）：青ナイルのグランド・ルネッサンス・ダムのプロジェクト実施。アフリカで最大、世界でも10本の指に入る水力発電プロジェクト。
- ケニア、エチオピア：両国間の電力網の相互接続（2013～18年）：1,000kmの送電網の建設。エチオピアの水力発電の大きなポテンシャルを地域で活用することを念頭に置いたもの。プロジェクトの大半はアフリカ開発銀行、世界銀行からのファイナンスを得て実施。

- ニジェール：電化計画のマスタープラン（2016～17年）：国家電化計画の作成と、2035年までに近代的な電力サービスへのアクセスを可能にするための戦略案の策定。
- ウガンダ：ブゴロビ（Bugolobi）廃水処理場（2010～18年）：ビクトリア湖保護の一環として、ブゴロビ廃水処理場、キナワタカ（Kinawataka）前処理施設の建設、ナキブドボ（Nakivd'bo）流域の下水道網の拡張・増強、キナワタカ流域の下水道幹線の設置
- コンゴ民主共和国：リウエッソ（Liouesso）水力発電ダム（2013～16年）：高さ40m、3基のタービンを備えた発電施設、2つの余水吐を設置したダム
- セネガル：テバ・ンジェイ（Taiba N'Diaye）風力発電所（2016年）：セネガルで最初の風力発電所の建設
- タンザニア：タゲタ（Tageta）ガス火力発電所（2008～09年）：天然ガスを燃料にした環境配慮型の高効率火花点火式ガスエンジンのプラント設置、エンジニアのトレーニング

ビジネス機会と課題

- エネルギー転換はデジタル化と不可分なものとの認識の下、企業のビジネスモデルを適用させる必要があると考えている。そのため、以下のようなデジタルツールの開発に取り組んでいる。
- 360° City Scan：都市のインフラ、サービスのパフォーマンスを測定するための研究。循環性、包摂性、魅力、生産性、レジリエンス、接続性の6つの要素により測定。
- TracToZero：利用するエネルギー、インフラの能力を基に最適な移動手段を検討するツール。Tractebelのクライアントの炭素中立（カーボンニュートラル）に貢献。
- City 2030 Study：2030年の都市についての研究。世界の都市の動向や、様々な都市の類型化に基づいた分類を考慮に入れたもの。
- プロジェクトの実現性を高めるため、主に国際金融機関からのファイナンスが得られるプロジェクトに注力。
- アフリカでは、特に公共の大規模インフラプロジェクトで汚職の問題が見受けられる。
- プロジェクトの難度によっては、熟練労働者の確保が課題となる。プロジェクト管理はベルギーの専門家が担う。
- 近年は、グループ全体では欧州やアジアのマーケットに回帰しているが、アフリカのエネルギー関連のプロジェクトでは依然として同グループのプレゼンスは大きい。

Contact

 Boulevard Simon Bolivar 34, 1000 Bruxelles, BELGIUM

 www.tractebel-engie.be

企業概要

1960年創業。不動産、醸造飲料に特化したファミリー企業。SKOL（ビール）ブランドの権利を有しており、アフリカの子会社はこれまでに7世代に渡ってビール事業に携わる。SKOLブランドのビールはアフリカで4,500万ヘクトリットル（45億リットル）以上を販売しており、アフリカの7カ国で現在販売されている。

子会社のSkol Brewery Limited（SBL）はルワンダのみで事業を展開。不動産部門はベルギー、ルクセンブルクで主に事業を展開。

ビジネス機会と課題

- 激しい競争、一時的な原料の不足、安定した品質の原料を現地調達することの難しさ、ロジスティクスの問題などは解決に数週間を要し、安定した生産に影響を与える。これらは大きなリスクであり、かつ繰り返されるもの。
- 為替レートの問題は主たる政治・経済リスクだが、コントロールはできないもの。但し、ルワンダフランについては、ルワンダ国立銀行は堅実な為替政策を取っており、状況は安定していると評価している。
- 政治的な不安定性もリスクであり、海外投資家は過敏に反応することがある。
- 一方で、アフリカ市場の成長性については楽観的。特にザンビア、ナミビア、ボツワナでのブランド展開のチャンスを狙っている。

進出国

ジブチ
エチオピア
ギニア
モザンビーク
コンゴ民主共和国
ルワンダ

主要指標（2019年）

売上：
970万EUR（SBL）
351万EUR（Unibraベルギー）





主要プロジェクト

- Ebale Buildingの建設（キンシャサ）：コンゴ川沿いに位置。屋上にプールと10戸のアパートを備えた建物、賃貸向け。
- SBL：5つのブランドを様々なパッケージタイプで生産。缶はベルギーから輸入。2017年から18年にかけて生産能力を16%増強し、ルワンダでのマーケットシェアは25%を達成。
- SKOLブランドは世界中で流通。世界的なビールメーカー3社がそれぞれ特定のエリアで販売：AB-INBEV－ラテンアメリカ、Carlsberg－欧州、北アメリカ、アジア（AB-INBEV、Carlsbergは創業者から権利を取得）。Unibraは当初よりアフリカでの販売権を所有し、SKOL事業を推進。

ビジネスは主に以下の3形態：

- Unibraが所有するビールメーカーによる製造・販売：Skol Brewery Limited（ルワンダ）、Zebidar Brewery Share Company（エチオピア）
- ライセンス供与（パートナー企業が製造・販売）：Castelグループ（DRC、ギニア、マダガスカル）、Bralico（コンゴ共和国）
- 輸出：生産拠がない国にベルギーまたはアフリカの醸造施設から輸出し販売

Contact

📍 Boulevard du Souverain 68 1170 Bruxelles, BELGIUM

🌐 www.unibra.be



企業概要

旧Emixis。テレマティクス*、車両管理、外勤職員トラッキング、IoTなどの分野でベルギーを代表する企業。Viasatグループのグループ企業で、70万台の車両が同社のサービスを利用。Aidoo mobile、Securysatなどのサービスを提供。

*車両に搭載した通信可能な機器を使い、様々なサービスを提供すること。

テレマティクス分野のパイオニアとして45年以上の経験を有し、今日では衛星を活用したテレマティクスサービスのオペレーターとして欧州での地位を確立、人、車両、資産の管理のため、インシュアテック、車両・廃棄物マネジメント、スマートコネクト、IoT、ビッグデータなどのサービスを、子会社を通じて提供。欧州、アフリカ、中東、南アメリカなど世界50カ国以上で事業を展開。

アフリカでは西部、北部アフリカでEmixis Africaの社名で15年以上前から事業を行っている。

主要プロジェクト

- Hertz、CFAO Automotive、Swisscontact、AML、SOCARなどアフリカ全土で数十社の企業がViasat/Emixisのサービスを利用してフリートを管理。
- コートジボワール：オートバイの窃盗対策として、現地の経済事情を考慮したボックスを開発・提案。使用コントロールに加え、GPSによるトラッキングが可能。

進出国

アルジェリア	ナイジェリア
ベナン	ウガンダ
ブルキナファソ	コンゴ民主共和国
ブルンジ	ルワンダ
カメルーン	セネガル
コンゴ共和国	南スーダン
コートジボワール	チャド
ジブチ	トーゴ
ガボン	チュニジア
ガーナ	
ギニア	
リベリア	
マダガスカル	
マラウイ	
マリ	
モロッコ	
モーリタニア	

主要指標 (2019年)

売上：4百万EUR
従業員数：33人
認定リセラー：50社
ジオロケーションボックス：25,150機設置





ビジネス機会と課題

- 車両管理、人員トラッキングの分野について、アフリカ市場はチャンスが大きい。柔軟性とイノベーションが必要。
- 複数のDRC企業から燃料の盗難の問題について相談を受ける。こうした要望に応えるため、車両メンテナンス管理のための先進的なモジュールを開発。
- 特にDRCの鉱山企業と関係強化を模索。

Contact

 Avenue Herrmann-Debroux 54, 1160 Auderghem, BELGIUM

 www.viasatconnect.be

ZINGAMETALL



商業・貿易・流通

化学

インフラ

企業概要

金属の腐食防止のためのコーティングに使用する亜鉛メッキフィルムを製造し、「ZINGA」ブランドで販売。使用する亜鉛の純度は極めて高く、乾燥させたZINGAには有害物質が含まれない。この特殊材料を製造する唯一のメーカーとして、他の腐食防止技術も含め、世界115カ国で製品を販売。

主要プロジェクト

- エジプト：El Salaam橋のZINGAでのコーティング
- ガーナ：ダンゴテのセメント工場全体（金属部分）のコーティング、アコンボ（Akosombo）水力発電ダムの水圧管とクレーン（10,000㎡）のコーティング
- ケニア：ラム（Lamu）港の鉄筋コンクリート建造物の骨組み部分のコーティング
- モロッコ：モハメディア、アガディール、タンタンのShellの hidrocarbon 製品貯蔵施設のコーティング

ビジネス機会と課題

- 独自性を有した高品質な製品であるものの、他の競合製品に比べて価格が高い。原料の価格に加え、輸送費や関税が加わることで、ローエンドの競合製品に比べて価格が一層高いものになってしまう。
- 特にアフリカの消費者は短期的な視点で考える傾向があり、高価だが高品質の商品よりも、耐久性が短い安価な商品を好む。ハイエンド製品の付加価値は必ずしも市場で求められている訳ではない。
- 腐食防止剤分野においては資金調達の機会が少なく、素晴らしいプロジェクトであっても合意に至るケースは少ない。
- 中国、インド企業との競争が激化。

進出国

アフリカ全土で販売

自社拠点：
ナイジェリア
ガーナ

主要指標（2019年）

売上：4百万EUR

従業員数：30名以上

ディストリビューター：

世界85社、アフリカでは15社



Contact

📍 Rozenstraat 4, 9810 Nazareth, E

🌐 www.zinga.eu

